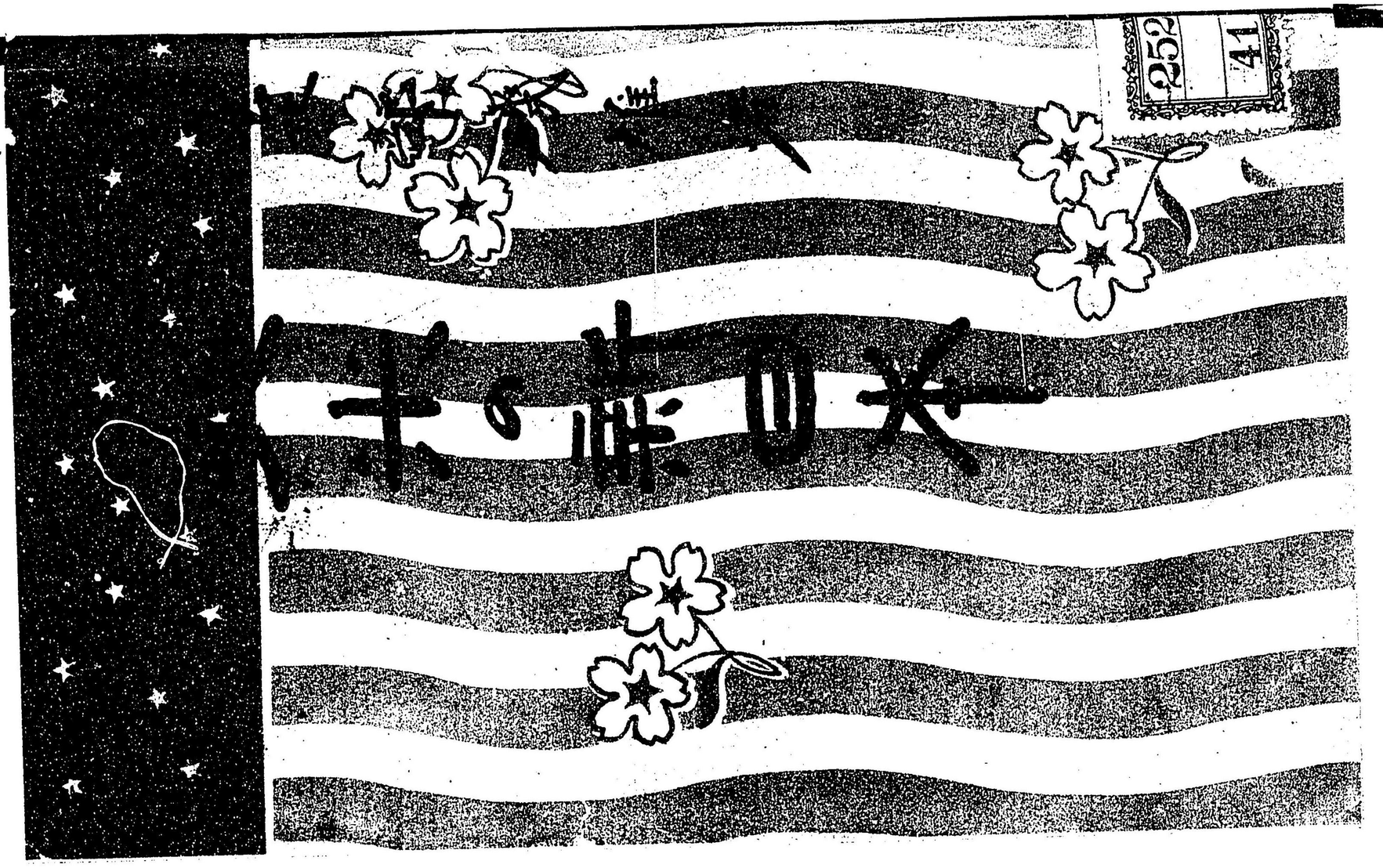


特20
222

兆集
博文館藏版

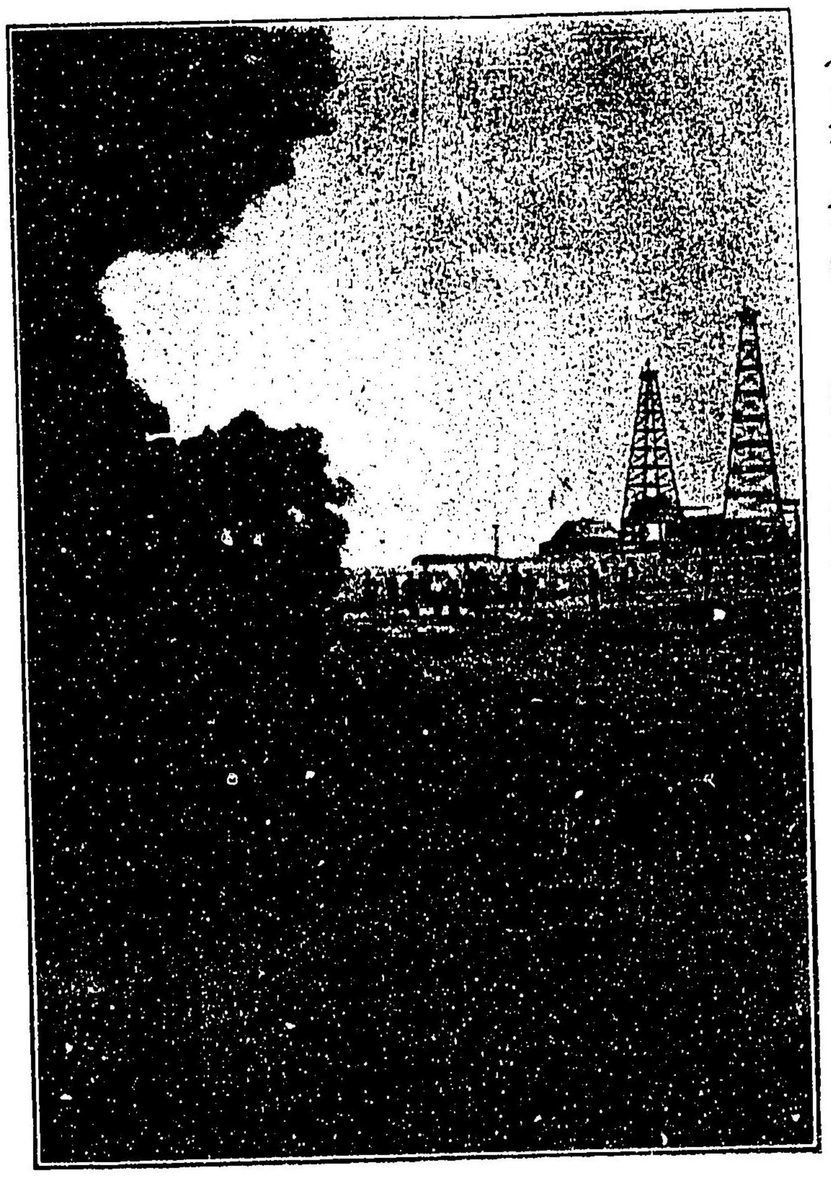
新日本

安部磯雄著

明治
38 9 27
内交

ボモナ大學講堂

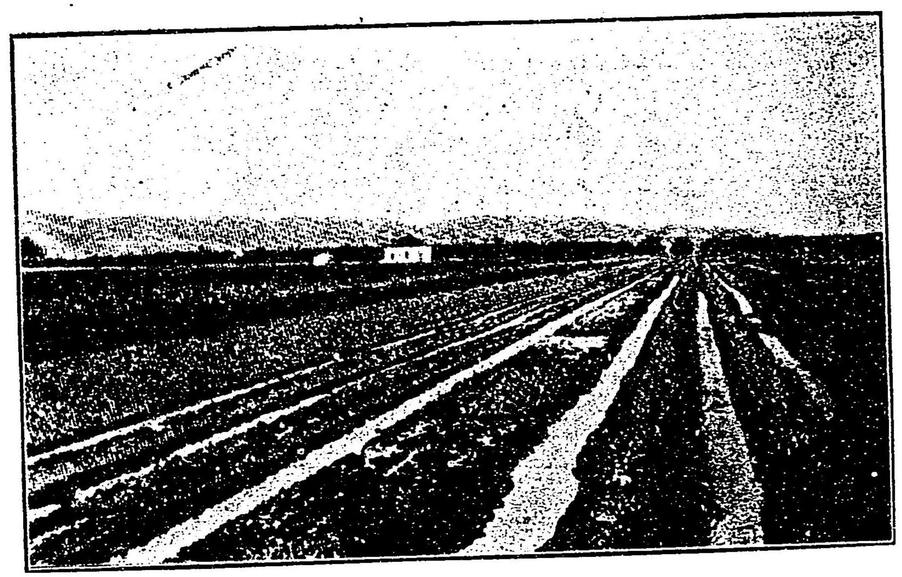
パサデナにおける倉永氏の美術店



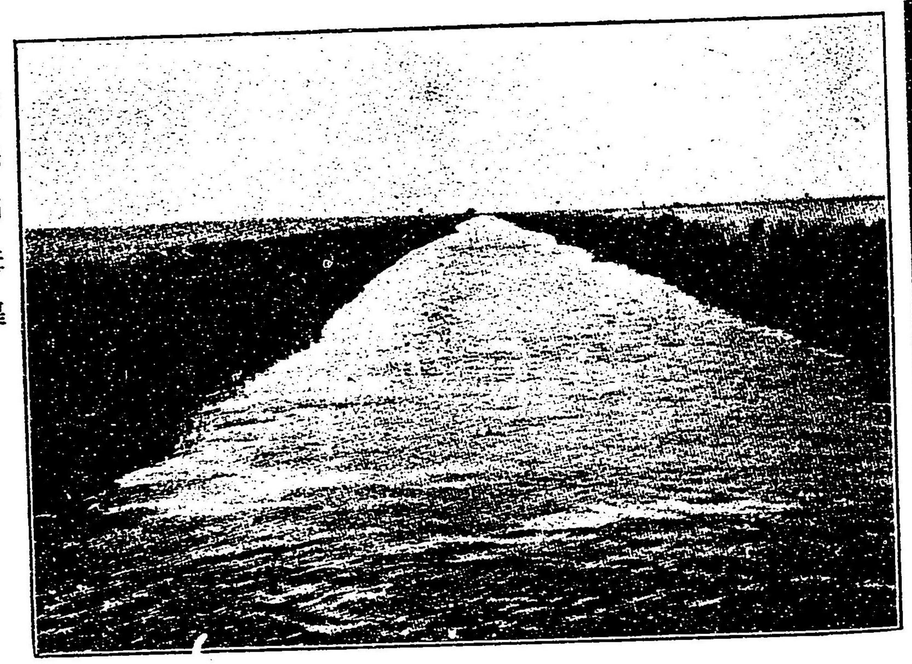
ベーカースフヰールド附近ノ石油池ニ火ヲ點ジタル景

同石油池

ベーカースフヰールド裁判所入口ニ於ケル早稲田大學野球選手



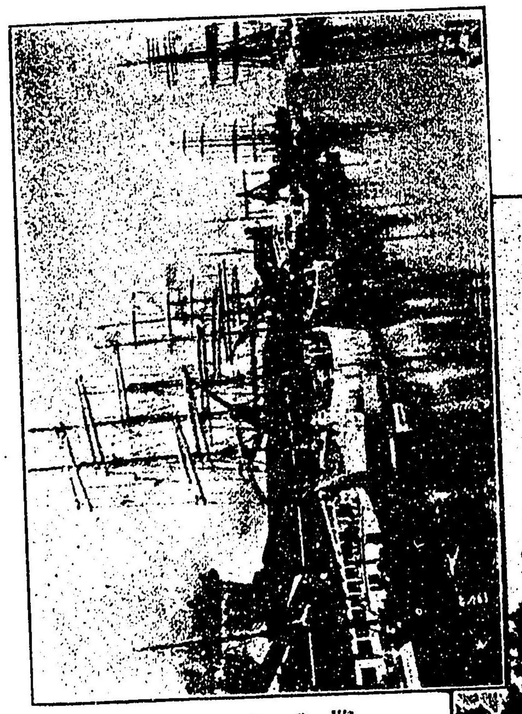
畑及び溝渠



灌漑用溝渠

カリホルニヤの灌漑用水堰

オレンジ園



ベロムの港

港湾

木大のヤニルホリカ

謹んで此書を早稲田大學野球選手一行を歡迎し多大の援助と奬勵とを與へたる在米同胞諸君に獻ず

自序

余は本年四月四日早稲田大學野球選手と共に渡米の途に就き同年六月廿九日恙なく横濱の埠頭に着したるまで殆んど一萬浬に近き汽船旅行と二千二百哩に餘る汽車旅行とを試みた。而も今回余が旅行せし所は全く太平洋沿岸の米國に限られ南はローサンゼルスより北はシヤトルに至るまで多く我同胞の居住せる所を觀察することが出來た。其結果二個の事情が余をして此小冊子を公にするに至らしめたのである。

余は平常我同胞の渡米することには少からぬ贊同の意を表して居たが太平洋沿岸の米國に就きては充分なる知識を有たなかつたから渡米志望者の質問に對して滿足なる答辯をなすことが出來なかつた。今回は

圖らずも其地方を觀察するを得たのでいよ〳〵渡米の利益と必要とを感ずるに至つたから終に余が觀察の結果を我同胞に示したいといふ考になつた。

今一の理由は我朝野の政治家に太平洋沿岸の米國が如何に我國に重要なる關係を有して居るかを認識して貰ひたいのである。太平洋の彼岸に在る我同胞の數は既に六萬に達して居る。彼等が毎年日本に送りつつある金額は千萬圓に達し彼等が需要する日本の物品にして彼地に輸送せらるゝもの亦百萬圓前後であるではないか。然らば單に經濟上より見るも我國の政治家は決して在米の同胞を輕視する譯にはゆかぬ。まして在米同胞の發達如何は我國家の保護と奬勵の程度に因るのであるから余は彼等の爲に我政治家の注意を喚起するの己むを得ざるを感

するのである。若し此小冊子にして幾分にても渡米奬勵の媒介となり政治家の注意を此問題に傾けしむるの動機ともならば余の願望は達せられたのである。

明治三十八年九月

著者識す

北米の新日本目次

第一章　太平洋沿岸の米國……一

一大寶庫●加州の農業は鑛業を凌駕せり●加州の農業●農業上の統計●オレンジ及び甘蔗糖の發達●鑛物の統計●オレゴン州の農業●オレゴン州の地勢●チシントン州の木材●鑛業●農業●漁業●アラスカ●天産物●毛皮の輸出

第二章　一大移住地……二三

日本人の數及び生産力●異鄕に在つて故國に在るの感あり●新聞紙及び敎育機關●我同胞の團結

第三章　事業は勞働者を待ちつゝあり……三〇

在米者は渡米したることを後悔せるか●苦學の方法●學問の地にあらずして事業の地なり●事業の種類●オレンジの摘取●日本勞働者の好評●ベーカースフヰールド附近の石

目次

油坑●フレズノの葡萄園●オレゴン州及びチシントン州の事業●一萬三千弗を貯蓄した
る新聞賣子●在米同胞者中の成功者●商業界の成功者

第四章　何故に多數の日本人は成功せざるか……五一

我同胞通有の惡弊●墮落の原因●如何にして救濟すべきか

第五章　女子の渡米を奬勵すべし……五七

在米同胞中に女子少なし●妻を得るの困難●何故に我同胞は白人を娶らざるか●女子の渡米は必ずしも結婚の爲にあらず●女子の仕事●農業に從事せる日本婦人●政治家の一考を促す●女子の渡米を援助する法

第六章　日本人排斥問題……七〇

排斥問題の眞相●排斥問題は勞働問題にあらず●排斥問題は一種の滑稽劇ではないか●米國人中にも異論者あり●露政府の煽動に因るといふ說●人種的僻見●我政府の覺悟●渡米者を制限せんとするは近眼的政策なり●渡米苦心談●我政府の干涉餘りに甚し

第七章　政府は何故に渡米者を制限せんとするか……八五

我政府が渡米者を制限する理由●米國政府の我渡米者に對する態度は一種の侮辱なり●復讐の政策●我は決して安心すべからず

第八章　日本人の同化力……九四

日本人と清國人との差●日本人の淸潔●日本人の食物も米國化しつゝあり●住居も亦然りである●精神的同化力●我同胞の道德●無賴漢●白人の下層社會

第九章　在米者及び渡米者に一言す……一〇六

前途多望●投機的精神を排除すべし●一攫千金を夢みる者多し●嫉妬心を棄つべし●北米の文明に接觸すべし●交際的なれ●交際の方法●勞働組合に加入するか若くは自ら組合を組織すべし●信用

第十章　新日本の建設……一一九

新日本建設の理由●我國民の使命●人種問題の解釋●我政府の執るべき方針●人民の爲すべき事●清國人移住の成功したる理由●金融機關●株式會社●英字新聞

【附　錄】

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表……一三五

桃杏の栽培●オレンジ●食卓葡萄の自作●食卓葡萄の小作●葬●馬鈴薯●ピーンズ（豆類）●トマト（赤茄子）●玉葱●セロリ（野菜類）●アスパラガス（野菜類）●ラデッシュ（野菜類）●甘菜●ホップス（麥酒の原料）●牛乳業●養雞業●菊及び百合の栽培●石竹●薔薇●テキサス州に於ける三種の米作法——資本を投じて自ら耕作に從事する法——自ら資本を投じて其耕作を他に渡すの法——小作人として働くこと

第二　在米本邦人の商業……二〇八

米人を華客とする商業●同胞を相手とする商業

目次終

北米の新日本

第一章　太平洋沿岸の米國

太平洋沿岸の米國をいふは僅にキヤリホルニヤ、オレゴン、ヲシントンの三州に過ぎないが其面積より言へば我國の二倍に當る程の廣大なる土地である。南方メキシコの邊に至れば氣候温暖にして冬期といふものがない。北方キヤナダの境に近づけば殆んど我北海道と等しく數月の間白雪に埋められるゝの有樣である。東はシーラヂバダキヤケードの山脈及びロツキー山脈の一部に限られ西は太平洋に面して自然に一

安部磯雄著

區域をなして居る。而して此土地が如何に天產物に富めるかは人々の善く知れる所であつてこれを北米の寶庫と稱するも決して過言ではあるまい。

加州の農業は鑛業を凌駕せり

殊にキヤリホルニヤは最も天產物に富めるの地であつて我日本の最も多く心を用ゆべき所も此處である。千八百四十七年に金鑛の發見せられてより此處に移住するもの頗る多く一時キヤリホルニヤ產出の金は世界に於ける金の相場に一大動搖を來す程であつた。千八百四十八年より千九百年の一月に至るまでキヤリホルニヤが產出したる金の總額は十四億〇九百八十四萬九千弗で過去廿年間に於ける銀の產出額は三億弗であつた。水銀の產出は全世界產出額の五分の二を占めて千九百年に於ける粗質石油の產出額は合衆國諸州中第四位を占むるに至つた。然れども加州に於ける農業は近來長足の發達をなしたるが故

に鑛業は稍其光彩を失ひたるが如き觀がある。鑛業が一時加州の主要事業であつた時代には恰も我足尾銅山の土砂を渡良瀨川に流出せしめたるが如く盛に其石塊を河川に投じたのであつたが、農業が漸次重要なる地位を占むるに及び茲に鑛業と農業の衝突が始まつた。千八百八十年政府より派遣したる技師の調査せし所に依ればユバ河のみにても土砂の流出したるもの一億立方ヤードに及び、これが爲め最良耕作地の埋沒せられしもの一萬五千エーカー(一エーカーは我四反十八歩許)以上であつたといふことだから忽ち政治上の八釜敷問題となり。雙方激烈なる競爭をなしたる後、終に千八百八十四年農業保護の途確立するに至つた。これを見ても如何に加州に於ける農業が重要視せらるゝに至つたかが分るであらう。

加州の農業

太平洋沿岸の米國

加洲は最も農業に適したる地である。四時温暖にして植物の發生には

極めて適當である。殊に南部加洲に至りては殆んど霜を見ることがない
から菓實の如きも其産出期が割合に長いのである。例せば苺（イチゴ）の如き其
實の成熟して終を告ぐるまでは通常一ヶ月位のものであるけれども南
部加洲の如きは殆んど七八ヶ月打續いて産出することが出來る。トロ
ピコといへる地方に於ては八月に植付をなして其十月に最早多少の收
獲があり其後引續き十五ヶ月少しも間斷なく市場の需要を充たすが如
きともあつたさうだ。隨分驚くべきことではないか。此の如き有樣である
から米國人は殆んど年中新鮮なる苺を食することが出來る。余が南部加
洲に至つた時には最早オレンヂ（蜜柑の種類）の摘取は終つて居たが中
には遲く成熟するのもあると見えて累々として黄色のオレンヂが枝に
滿ちて居るのを見た。然るに其時は既に花咲き新しき實を結ぶの時で
あつたから成熟の遲き樹には累々たる黄色の菓實と小き綠色の新菓實

とが同時に枝に充ちて居るのを見た。加洲は五月より十月までが乾燥
期であり十月より五月までが降雨期である。乾燥期になれば殆んど一
日も降雨することはないから都會は塵埃に埋れて隨分困難することもあ
るけれども、菓實や野菜類の栽培には極めて好都合である。然し灌漑
用の水に不自由を感ずることはないかと問ふ人もあらんが此點に於て
も加洲は實に天の恩惠を受けて居る。如何なる炎暑の候にもシーラヂ
バダキヤスケードの山脈は常に其戴ける白雪を融して河川に送るので
あるから混々たる水は斷へず茫々たる沃野を縫うて流れて居る。故に
新に土地を耕さんとするものは溝渠を堀りて其水を引きさへすれば充
分である。若し亦河川の水を引く程の近距離にあらざる場合は井戸を
穿ちて給水を噴出せしむることも出來る。千八百九十九年中に斯の如
き灌漑法を用ゐて耕作を始めたる土地は南部加州のみに於ても三十萬

エーカーに及んだといふことである。

唯農業が盛であると言つても其實際を數字にて示さねば充分了解する譯に行かぬから左に千九百年に於ける重なる農產物の生產高を記して見やう。

農業上の統計

	弗
葡萄及び乾葡萄	一八、〇〇〇、〇〇〇
其他の菓實	九、六九五、〇〇〇
オレンジ及びレモン	一、〇九八、〇〇〇
オルモンド及びオルノツト	三、五七八、四〇〇
葡萄酒	五、八五八、〇〇〇
ブランデー	二、二四一、四二八
乾プルーン（李の種類）	三、二四六、八〇〇
其他乾菓實	六、八五〇、〇〇〇

鑵詰菓實及び野菜	六、六七五、〇〇〇
橄欖油	一、一七〇、八七一
東部に送る新鮮なる野菜類	一、三七五、〇〇〇
ホップス（麥酒の原料）	一、〇九一、五〇〇
ビーンズ（豆の種類）	一、六六〇、六〇〇
甘菜糖	三、二四四、五〇〇
蜜	二五五、〇〇〇
小麥	二一、〇〇〇、〇〇〇
大麥	八、四六〇、〇〇〇
オーツ（穀類）	一、〇二〇、〇〇〇
玉蜀黍	一、〇八〇、〇〇〇
枯草	二四、四四四、八九一

太平洋沿岸の米國

北米の新日本

馬鈴薯	一、一〇五、八一五
牛乳牛酪乾酪	一二、八三〇、七九七
羊毛	二、二六六、五六〇
合計	一三八、四〇一、一六二

オレンジ及び甘蔗糖の發達

三十年前までは穀物枯草羊毛を除くの外は殆んど皆無と言つてもよかつた。唯金と羊毛に於て他州に勝つて居たのであるが、其後諸種の農産物が驚くべき發達を爲すに至つた。殊にオレンジの如きは最も吾人の注意すべきものである。千八百六十二年には加州に於て二萬五千本のオレンジ樹があつたけれども何れも種子のある種類であつたから千八百七十三年に農務省はブラジルより二本の種子なきオレンジ樹を取寄せこれをリバーサイド（ローサンゼルスを距る四十哩許）といふ處に送りて栽培せしめた。今や此種のオレンジは漸次に繁殖し南部七郡に

鑛物の統計

於けるオレンジ樹數は四百十二萬四百七十本に達し、レモン樹數も百四十三萬二千八百二十九本に及び之に用ゐらるゝ土地は五萬五千五百千弗に及ぶことがあるさうだ。其の收益も最も多く、往々一エーカーに付き二し千八百九十年の統計に依れば其生産高に於て合衆國中第一位を占むるに至つた。即ち全合衆國が此製造業の爲に二千〇九十五萬八千五百十九弗の資金を投じて居るのに加州は一千〇十三萬九千七百八十弗を投じて居るのである。

次に千八百九十九年に於ける鑛物の生産額を左に揭げやう。

金	一五、三三六、〇三一弗
銅	三、九九〇、五三四
石油	二、六六〇、九七三

太平洋沿岸の米國

北米の諸日本

水銀	一、四〇五、〇四五
硼砂(Borax)	一、一三九、八八二
石灰、石灰石、セメント	五二三、八八二
銀	五〇四、〇一二
土瀝青	四二四、二二七
石炭	四二〇、一〇九
鑛泉	四〇六、六九一
曹達	一四九、五八八
其他の鑛物	二、一〇二、七八八
合　計	二九、〇六三、五八二

これに依りて見れば鑛物の産出額は到底農産物の其に匹敵することは出來ない。加州の富は主として農產物にありと言はねばならぬ。而して

家畜の數は幾何なるやといふに。千九百年の統計に依れば馬三十二萬一千七百廿九頭。騾馬四萬八千六百八十二頭。普通牛六十萬四千八百八十一頭。羊二百萬一千五百一頭。豚三十七萬四千一百四十一頭である。(但し豚のみは千八百九十九年の統計に據る)其他木材の産出額は千四百五十三萬七千弗である。勿論以上陳べたる加州の富は其數字に於て未だ驚くべき程の有樣に達して居ないが、其人口が僅に百五十萬であつて我國人口の三十分の一に過ぎないことを思へば隨分驚くべき生產額ではないか。

オレゴン州は加州の如く温暖ではないけれども農產物及び鑛物に富み漁業にも林業にも適して居るから將來發達の餘地は充分にある。余が有する統計は千八百八十年のであるから勿論今日の發達を知る譯には行かないが唯農產物の大體を示すために其統計を揭げて見やう。

太平洋沿岸の米國

小麥　七、四八〇、〇一〇ブッセル
オーツ　四、三八五、六五〇ブッセル
大麥　九二〇、九七七ブッセル
玉蜀黍　一二六、八六二ブッセル
裸麥　一三、三〇五ブッセル
蕎麥　六、二一五ブッセル
馬鈴薯　一、三五九、九三〇ブッセル
枯草　二六六、一八七噸
ホップス　二四四、三七一ポンド
煙草　一七、三二五ポンド

而して家畜の數は馬十二萬四千〇七頭。騾馬及驢馬二千八百〇四頭。牡牛四千百三十二頭。乳牛五萬九千五百四十九頭。普通牛三十五萬二

千五百六十一頭。羊百八萬三千百六十二頭。豚十五萬六千二百二十二頭である。

余が加州の地を去りてオレゴン州に入つたのは本年の六月初旬であつて加州の沃野盡きるやオレゴン州の山脈は巍峩として聳え恰も大磯國府津の平地を去りて箱根の嶮に入るが如き心地した。而もシャスター山脈の長さは箱根七里の比ではない。鐵路蜿蜒として山を攀ぢ谷を渉る所風光常に變化して恰もパノラマを見るが如きの感がした。シャスター鑛泉の湧出する所には白布を懸けたらんが如き瀧があり我富士山に似たるシャスター山には不斷の雪を載せて清涼言はん方なき有樣であつた。汽車の此山脈に入り此山脈を出たのには彼れ是れ十二時間もかゝつたであらうか。而も余等は變化多き景色に見惚れて退屈を感ずるが如きことはなかつたのである。此二百餘哩に亙れる鐵路の兩側に

は未だ斧を入れざるの深林相連なり此處に無限の天産あることを認むることが出來た。殊に余等の注意を惹いたのは谷間に散在せる小村落であつて其所に幾多の我同胞が伐木事業に從事して居るのを見たのである。シヤスター山脈を過ぐれば再びオレゴンの平野に出で牧場、畠、果實園の間を横ぎりて州の北端に在るポートランドに達するまでは殆んど一帶の平地である。ポートランドは本年博覽會の開かれたる地であつてオレゴン州第一の都會である。此地方はコロンビヤ河及び其支流の流域に屬して居るのであるから殊に農業に適して居るのは言ふまでもない。

ワシントン州の木材

ワシントン州は二州の中最北に位して居つてシヤトル及びタコマといふが如き大都會は此所に在るのである。人口は尙ほ甚だ稀薄であるが天産物に富んで居ることは決して鮑州に劣ることはない。先づ木材の

事より陳べんに。全州殆んど到る所森林を見ざるはないといふ有樣である。キヤスケード山脈の北部にはオレゴン松と稱する黃樅、赤樅及び白杉、赤杉、落葉松等を生じ。西部ワシント州の低地には赤楊、楓、秦皮（トチリコ）、柏、白楊等澤山に繁茂して居るけれども其大なる點に於ては到底東部のものに及ぶことは出來ない。キヤスケード山脈の東部には黃松、落葉松を主として鬱蒼たる森林あり其木材の質に於ても決して惡くはないが西部のものに比すれば稍遜色がある。概して太平洋沿岸の木材の大なることは人々の知れる所であるが中には直徑三間に餘るものもある。余は嘗て木の切株の上で四組の男女が舞踏をして居る繪葉書を見たことがある。亦立木にトンネルを穿ちて馬車や自轉車の通り て居るのを見たことがあるが、これに依りても樹木の如何に大なるかを推測することが出來る。近來盛に鐵道を敷設する樣になつたから伐

太平洋沿岸の米國

木場から木材を市場に運搬することも至極容易になつた。伐木場の數も隨分澤山であるが材木製造會社の數に至つては五六千以上もあるといふことだ。今より二十四五年前の統計に依れば製造會社にて製造する木材は毎年六億五千萬呎位であつたのが今日では各港より輸出するだけでも十一億呎以上に達して居る。千九百三年に於ける產出額が二千萬弗であつたといふのを見れば實に一大天產物であることが分る。日本、支那、西比利亞、比律賓に輸出する木材も年々增加する傾があるので千九百年には三千一百萬呎位に達して居る。

キヤスケード山脈の兩側には澤山の鑛坑がある。殊に北部に於ては貴金屬の採堀が開始せられて居る。今では每年の產出額百萬弗に過ぎないから別段注意すべき程の事もないが將來有望なる事業であることは人々の等しく認めて居る所である。其外に石灰石、銅、鉛などにも富

んで居るが、余が殊に茲に記さんと思ふのは石炭と鐵とである。大なる石炭層はピユゼット灣とキヤスケード山脈の兩側に在つて北はベリンガム港より南はチエハリスバーリーに至る。炭層の厚さは五呎乃至十二呎である。此一大層の外にはキヤスケード山脈の東麓に於てヤキマの水源に一個の炭層がある。目下採堀せられつゝある高は每年三百萬噸位でメキシコ、布哇、フヰリピン、アラスカ等に輸出するもの殆んど其三分の一を占めて居る。將來に於て需要さへ增加すれば採堀高も從つて增加するは言を待たぬことである。鐵坑の大なるものは州の西部にあるがこれもピユゼット灣を去ること遠くはない。斯の如く石炭坑と鐵坑との相接近せることは工業の發達にとりては此上もなき助であつて英國が第一等の工業國であるのも全く此條件を具備して居るからである。されば將來ピユゼット灣に沿へるシヤトル、タコマの諸都市

北米の新日本

が第一流の工業市となることは、造船事業の發達に大なる刺撃を與ふるの材の供給豊富であることは豫期し得べきことではないか。殊に木である。彼のキャスケード山脈の北部に繁茂せる黄檜は其堅牢なると耐久性に富める點に於ては柏に次ぐべきものであるから造船の材料としては頗る適當である。他年一日シャトル及びタコマがグラスゴーの如き造船場となることあらば、これは全く此等天産物の賜であると言はねばならぬ。

農業は氣候のために到底加州に匹敵することは出來ないけれども。而も農業國として尚ほ第一流の地たることを失はないのである。加州の如く甘菜糖や玉蜀黍を多く生することはないかも知れぬが、其代りに小麥を産出するには最も適して居る。小麥の産地は主として州の東部であるが其出産額は毎年二千萬弗に近い。若し人口が增加するに至れ

ば將來必ず第一流の小麥産出地として世界に知らるゝであらう。葡萄の如きも大分加州と趣を異にして居るけれどもこれ亦有望の事業たることは疑ない。此處には加州の如くオレンジやレモンを見ることは出來ない。葡萄の如きも到底彼と比較することは出來ぬ。然れども林檎の栽培に至ては到底南部諸州の比肩し得べきものでない。其他櫻實、梨等にも富んで居るから我同胞も此方面に向つて力を致すべきである。未開の地は今日でも隨分多いから一エーカーに付き四十弗乃至百弗の金さへ出せば購ふことも上が出來る。

太平洋沿岸の米國

ヲシントン州にて漁業の最も盛に行はれて居るのはコロンビヤ河、シヨールオーターベー、グレースハーバー及びピユゼット灣である。魚類の主なるものは鮭、大口魚、鯡等であるが殊に鮭は其第一位を占めて居る。ピユゼット灣のみでも漁業に從事して居る者が五千人もあると

アラスカ

天産物

いふことだから隨分驚くべきではないか。鮭を鑵詰にすることを始めたのは千八百六十六年で今日では此事業が非常なる發達をなしピュゼット灣及びアラスカの鑵詰會社で製造するものを合算すれば一ヶ月平均二千萬弗以上に達するさうだ。

太平洋沿岸の米國を叙述するに當りてはアラスカを除外する譯にゆかぬ。勿論其位置から言へば以上陳べたる三州を離れて居ると數百哩であるけれども、其太平洋に面して居るが爲め三州との關係も深く、殊にシャトルの如きは在アラスカ人の需要品を常に供給して居る許でなくアラスカの産物も多くはシャトルに集まつて來るのであるから、最後に一言して置くのも不適當ではあるまい。

アラスカは北米大陸の西北隅にありて最も長き所で一千一百哩。幅の最も廣き所が八百哩位である。面積は五十一萬四千七百哩であるから

殆んど太平洋沿岸の三州を合併したるもの、二倍に當るのである。今は僅に七萬人位の住民があるのみであるが天産物は中々多い。餘り北方に位して居るから農業は出來ぬと思ふ人があるかも知れないが日本の南方を通過する暖流がアラスカ西南岸を打つのであるから、小麥などを産するには差支がない。然し其主たる天産物は農産ではなくて鑛産、林産、水産である。アラスカの金と言へば誰も知らぬものはあるまい。數年前コロンダイクの金鑛が發見せられた時には多くの冒險家は我後れじと彼地に乘込んだ。千九百一年の統計に依れば一年の採掘額が二千二百萬弗に達して居るといふから隨分驚くべきではないか。林産物に富んで居ることも非常であるが、今は或事情の爲に充分伐木する程に至つては居ない。然し人口が增加するに從ひ且つ亦外國へ輸出するの必要起るに從ひて伐木事業も漸次盛大に赴くことであらう。

水産の豊富なることに至りては殆んど世界無比と言つても善い位だ。鮭や鯡の季節になれば海岸一帶魚族群集して海水も其の色を變ずるといふ有様ださうだ。我同胞の手腕を揮ふべき所は此北邊の地にもあるのである。

毛皮の輸出

露國の遠征隊が始めてアラスカの西北岸に達したのは千七百四十一年の事であつたが。其後此地は露國の領地となつた。アラスカは前節に陳べたる天産物に富める許でなく。海豹、海狸、川獺、熊等の獣に富んで居るから其毛皮を獲ることは露國人の最も注意したる所であつた。彼等は終に露米毛皮會社といふを設立して盛に其事業を擴張したのであるから露政府は千七百九十九年アラスカ全土を擧げて會社に貸與した。其當時に會社が毎年輸出せし毛皮の數は二萬五千位であつたといふことだ。然るに千八百六十三年貸與期限の終ると共に政府は再び

れを取り返したのであるが、千八百六十七年終に七百二十萬弗にてこれを北米合衆國に賣渡したのである。今や毛皮の輸出は益々增加して千八百六十七年より千八百九十年に至るまで其輸出したる總額は四千八百萬弗に達して居るといふことである。

日本人の數及び生産力

第二章　一大移住地

北米の太平洋沿岸は我日本にとりて此上もなき好箇の移住地である。目下彼地に居る本邦人の數は六萬人以上であるといふことだから丁度岡山とか靜岡とか云ふ都會が太平洋の彼岸に建設せられて居る樣なも

一大移住地

のだ。而も其都會は實際に於て岡山や靜岡に優りて幾層倍の生産力を有つて居るかも知れぬ。普通の都會に於ては半數は婦人である上に老人もあり小兒もあるから實際生産力を有して居るものは全數の三分の一位であらう。然るに米國に在る六萬の我同胞は極て少數の者を除く外は悉く生産者である。彼等は殆んど皆働かんが爲に彼地に渡航したのであるから一人として懶惰なるものはない。さて彼等は毎年幾何の富を得つゝあるや今これを詳細に知ることは出來ないが。彼等が桑港を經由して毎年日本に送金しつゝある高は五十萬位であるさうだ。若し之にシヤトル經由の分を合算すれば慥に一千萬圓には達するといふことだ。此内には勿論ロッキー山脈以東に在る日本人の送金高をも含めたのであるが。たとひ太平洋沿岸の日本人が送金する高を極々内輪に見積りても六百萬圓を下ることはあるまい。六百萬圓といへば驚くべ

き金額の樣であるけれども一人が毎年百圓送金さへすれば六百萬となるではないか。而して實際の所を言へば一年に百圓の金を剩すが如きことは實に容易なることで。普通の人ならば三四百圓を殘すことは決して困難でない。若し日本への送金を一千萬圓とすれば彼等が米國の銀行に貯蓄し若くは資本として種々なる事業に投じて居るものは實に多額に上つて居るであらう。我日本内地の都會にして僅に六萬位の人口を有するものが果して善くこれ程の富を産出することが出來るだらうか。然らば單に生産の上より考ふれば太平洋沿岸に於ける我移住地は仙臺や名古屋に比して更に遜色がないかも知れぬ。吾人がこれを稱して一大移住地と稱するは決して過言ではあるまい。

吾人が先般野球競技の爲に太平洋沿岸の地を旅行するや吾人は熱心なる我同胞の歡迎を受けた。吾人が不幸にして敗れたる時には種々なる

言辭を盡して吾人を慰諭し。吾人が幸にして勝ちたる時には、ボルチック艦隊の勝報を聞きたるよりも歡喜した。吾人は斯の如く我同胞の深厚なる同情に擁せられて愉快なる旅行をなしたが同時に屢日本料理を食するの機會を得て遠き異邦に在りながら尙ほ我故國に在るの感を爲したることは幾度であつたかも知れぬ。桑港には一萬人の同胞がありローサンゼルス、シャトル、フレズノ等には三千乃至四千人。其他の小都會に於ても數百名の同胞が居るのであるから到る所日本料理店のない所はない。味噌醬油の如き食料品は言ふまでもなく、豆腐、蕎麥の如きものも望み次等に得らるゝといふ有樣だから何時でも日本食を味ふことが出來るのである。啻に食料品のみではなく娛樂の事に至りても不自由はない。某處に於て吾人の爲め歡迎會が開かれたが其餘興としては彈奏があり日本少女の振袖姿にて踊るあり最後には豐澤團

三郎とかいふ人の義太夫などがあつたので吾人は暫し故國に在るの感をなした。北米の新日本は人口の點に於て發達して居る許ではなく其生活の點に於ても殆んど全く故國の風を移植して居るの觀がある。新聞紙の發達も亦注意すべきことである。桑港には「新世界」と「日米」と稱する二個の日本新聞がありローサンゼルスには「羅府新報」ポートランドには「オレゴン新報」シャトルには「北米時事」といふのがある。人口六萬の日本人に對しては新聞紙の數が多きに過る樣であるが何分米國では廣告を盛にやる風があるから讀者は少くても新聞は比較的よく維持せられて居るといふことだ。何れの地に於ても同樣であるが新聞社は常に先頭に立ちて協同事業に盡力して居るから我同胞を統一する上には一大勢力となつて居る。新聞紙の外に敎育機關として必要なるものは同胞の設立せる各種の學校及び宗敎團體である。後者の內には

一大移住地

基督教青年會もあるが佛教青年會も盛に活動して居る。

如何に多數の日本人が太平洋沿岸に移住したりとて、若し彼等の間に團結といふことがなかつたならばこれ即ち烏合の衆で決して一大勢力となることは出來ぬ。然るに幸にして先般有志の發議に依り在キヤリホルニヤ洲の日本人は協議會なるものを設けて茲に團結することになつた。此協議會なるものは代議制であつて各地方より代員を選出し時時重要なる問題に付き協議せしむるを目的として居る。代員は三十名許りで先般開きたる集會に於て同會の費用として一萬三千弗を可決し在キヤリホルニヤの日本人がこれを負擔することになつたさうだ。今や日本人排斥の聲は漸く高く我同胞の不便と屈辱を感ずること少からざるに當り協議會は一方に日本人の統一を謀り一方には加州政府に交渉して圓滑に諸問題を解決せんとして居る。余は實に北米新日本の將來

に對して此協議會の益發達せんことを祈るものである。吾人野球隊が桑港に着するに先だち此協議會に於ては少からぬ援助を吾人に與へて呉れた。人々も知れる如く最近に於て米國政府が我が渡米者に向つて嚴密なる體格試驗を行ふことは實に豫想外にして上等の船客と雖も往往送還の厄に逢ふことがある。故に吾人野球隊も亦此災厄に逢ふの恐があるから協議會の役員は豫め米國移民官に事情を具陳し野球隊に限りては如何なることあるも必ず上陸せしむべしとの承諾を得た。吾人は茲に協議會に向つて一言感謝せざるを得ない。

第三章　事業は勞働者を待ちつゝあり

在米者は渡米したることを後悔せるか

余は先般渡米するまでは太平洋沿岸の移住地に就きては餘り多くの注意を拂はなかつた。勿論彼地に渡るものが勤勉と品格とを以てすれば必ず成功するに相違ないとは信じて居たが日本人排斥問題が八釜敷なると同時に我政府が嚴密に渡米者に制限を加ふるので余は頗る面倒なることゝ思つて一時は此問題を放棄する位であつた。亦彼地に出掛けた人々の中で成功したものが割合に少ないのを見て渡米の可否に付きても少しく疑を挾む様になつた。其處で先般渡米した時には注意して我同胞の有様を觀察し彼等の意見をも聽いて見たいと思ひ、先づ彼等自ら渡米したることを喜んで居るや否や。尚彼等は日本人が續々渡米することを願ふや否やを多くの人々に質問した。彼等は殆んど異口同

苦學の方法

音に答へて曰ふには米國程生活するに氣樂な所はない職業のなきが爲に心配するの必要は少しもない。仕事は常に吾人を待ちつゝありといふ有樣であるから。今後我同胞が續々渡米することあるも決して無職業の爲に苦むが如きことはないであらうと。これは余が到る所にて聽きたる返答であるが實際米國に來つたことを後悔して居る樣なものは殆んど一人もないと云うてよい。沃野千里といふキヤリホルニヤの平原で而も日本の面積に等しき土地に僅か百五十萬か二百萬の人口があるのだから仕事を求めて得られぬといふが如き事のないのは何も不思議な事ではない。

學生にして尚ほ彼地で勉學せんと欲するものは多くスクールボイをやつて居る。スクールボイといふのは一家族の料理方を勤めながら學校に出席するといふので隨分骨の折れることではあるが學資なくして勉學

事業は勞働者を待ちつゝあり

せんとする人々の爲に最も便利なる方法である。毎朝五時か五時半頃に起きて朝飯の用意をなし八時頃には萬事片付くから其より學校に出席する。晝飯は極めて簡單なるものだから大概主婦が自分でやるさうだ。晩は四時半若くは五時頃より働き始め八時頃には食事も全く終るから、其後は勝手に勉強することが出來る。此丈の仕事をすれば其家に在りて一室を與へられ亦食事をすることが出來る。土曜日には大抵何れの家でも大掃除をやるから此時に手傳をすれば一時間二十五仙位の割合で金が得らる。これが即ち雜費となるのである。夏期に入り學校が休暇になれば專務の働きに從事して金を儲けこれで一年間の被服費や臨時の費用を辨ずるさうだ。斯の如き方法で中學程度の學校に通うて居るものは桑港、オークランド、シャトルなどに大分多い。スタンホード大學に居る數十人の學生も多くは此の如き方法で自活の途を

立てゝ居るらしい。

然し余は茲に一言して置きたいことがある。以上陳べたる如き方法を採りて勉強するのは果して得策であらうか。日本に於て中等教育を終り米國に於て直に大學に入ることが出來るとすれば僅か卒業まで三四年の事であるから斯の如き方法を採るも善からう。然しグランマースクールや、ハイスクールなどに入りてまでも自活勉學をなさんとする人は、大學を終るには十年位を費すの覺悟がなくてはならぬ。勿論其志は感ずべきであるけれども其十年間を修學に費すのと事業に費すのと何れが其人の利益となるかに付ては愼重に考へねばならぬ。余は學問に成功する自信ある人が學問の爲に渡米することには決して反對せぬ。然し學才も普通であり而も學資のない人が米國に至りて學問せんとするのは寧ろ方針を誤つて居るのではないかと思ふ。スクールボイ

第三章　事業は勞働者を待ちつゝあり

事業の種類

をして十年間も辛抱する程の氣力ある人が若し勞働一方に其精力を注いだならば如何であらうか。十年間には屹度資產を造りて何等かの獨立事業を始むることが出來る、注意さへして居れば必要なる學問は事業をなす間にでもやることが出來る。米國の太平洋沿岸は學問の地でなくて事業の地であることを記臆せねばならぬ。

專門に事業を爲すといふ人には如何なる働きがあるかといふに先づこれを大別して二種となすことが出來るであらう。一は他人に使はれて賃銀を得ること。一は自ら資本を投じて獨立の營業を爲すことである。資本なくして渡米する人は先づ順序として數年は他人に使はれねばならぬ。其仕事といふのは一家族の內に住み込んで料理番となること。或は旅館のボイとなること。商館の賣子となること。農家に入りて働くこと。菓實の栽培若くは摘取に從事すること。鐵道工事。伐木事業

等をやること。各種の工場に入りて働くこと等で其事業は實に千情萬態である。言ふまでもなく米國に於ては我國に於けるが如く勞働を輕んずるが如き風がないから相當の敎育ある人でも進んで勞働をなすべしである。斯くて五六年も辛抱すれば屹度一二千弗の金を貯蓄することが出來るから其內に機を見て獨立の事業を經營すれば善いのである。さて獨立の經營として如何なることが行はれて居るかといふに。都會に於ては旅館或は料理店を開くも善い。日本の雜貨及び食料品を賣る店を始むるとも出來る。其他日本人だけを得意とする仕事は隨分澤山ある。何分數千若くは一萬以上の同胞が居住せる所に於ては散髮屋も湯屋も豆腐屋も蕎麥屋も必要である。其他球突の如き遊戲場を開いて居る人もある。桂庵も中々澤山ある。若し亦田舍に至らんか。獨立の事業は何れの所にも吾人の來るを待ちつゝある。若し土地を購ふ程の資

力がなくば小作人となるも善い。兎に角五六町歩から七八町歩の土地を借ることは容易なることである。若し幸にして數千弗の貯金を爲して居る人があらば進んで土地を購ふことが得策である。而して其土地は野菜類の栽培にでも菓樹の栽培にでも用ゆることが出來る。目下我同胞にして此等の事業に從事せる人は澤山ある。兎に角沃野千里に亙るといふ有樣だから將來農業の爲に幾十萬の日本人が渡米してもこれが爲め土地の不足を告ぐる樣なことはない。余はベーカースフヰールドといふ所より桑港まで汽車旅行を爲したることがあるが、其間は實に一面の平野である。シーラヂバダキャスケード山脈と海岸山脈の間は十五哩乃至廿哩位の谷間をなして居て其延長は殆んど百哩である。これを武藏野などに比したらば殆んど話にもならぬ位だ。而も此沃土の大部分はまだ手を附けてない。畑どころでなく牧場にすら使用して

ない所が多いのである。更に進んでオレゴン洲やヲシントン洲に至れば其森林と魚類に富んで居ることは驚くべきものがある。將來日本人の數が增加して六十萬となることがあつてもこれが爲に白人が職業を失ふといふが如き恐はない。白人にして日本人の移住を拒絶するが如きことあらば二十年や三十年の間に太平洋沿岸の天產を充分に利用することは出來まい。當分日本人に取りて西部米國程善い移住地はないのである。

今少しく我同胞の事業の一班に就き觀察したる所を陳べて見やう。南部加州は菓實の生產で有名なる所であるが、日本人はローサンゼルスを中心として其近傍に多く居住し專ら菓實の栽培や摘取りに從事して居る。ローサンゼルス地方は氣候温暖にして我薩摩や琉球などゝ匹敵して居る樣だ。冬期に至れば東方より避寒のため來住するもの頗る多

第三章　事業は勞働者を待つゝあり

く其時ローサンゼルスは非常に繁盛するといふことだ。同市を去る數哩の地にパサデナと稱する所がある。其所は東部の富豪が別莊を有する所で、其の市街の清潔にして閑雅なる殆んど他に例を見ることは出來ない。家屋も五千弗以下位のものは建築することを許さぬといふことだから貴族的と言はゝ貴族的に相違なきも其美麗なることには驚かざるを得なかつた。此市街には百萬弗以上の資産あるものは澤山あつて千萬弗以上の者も數名はあるといふことを聞いた。レイモンド旅館といふは風景絶佳の所に位して居るが太平洋沿岸に於ては第一等の旅館であるさうだ。夏期は東部の客も去つてしまふけれども氣候は必ずしも極熱といふ譯ではない。此附近の太平洋沿岸には十個所許り有名なる海水浴場があるが吾人は一度其中のサンタモニカと稱する浴場に行いて見た。其時はまだ海水に浴する程の暑氣でなかつたから海水を

汲み上げてこれを暖め大なる池に湛へて水泳の便に供してあつた。吾人は實に其設備の大なるに驚いた。斯の如く此地方は一年を通じて氣候宜しく健康を害せる人には最も適當であるといふことだ。斯の如き有樣だから菓實の生産には此上もなくよく適當して居る。今一つ陳べて置きたいのは此地方が天然の景に富んで居ることである。綠を湛へたる森林、銀の帶を横へたるが如き河水は言ふ迄もなく炎熱烈しき時にも一方を眺むれば雪を戴きたる山脈は蜿蜒として南北に連つて居るのである。始め此地方を占領したる西班牙人は此美麗なる天然に醉うて詩的感興に耽つたものらしい。彼等の形身とも見るべき地名は如何に彼等が詩的なりしかを證して居るか。ローサンゼルスとは西班牙語の天使といふ意味で。パサデナとは天國に至るの關門といふことであるさうだ。ポモナといふのは女神の名であつて今は大學の名になつて

居る。然し此等は決して偶然ではない。ローサンゼルスは其名の如く市街も美麗で市民の性質も極めて善い、之を桑港に比すれば天地の差であつて余はローサンゼルス在留の同胞の爲に深く喜ぶのである。此地方の中でも殊にポモナ大學の所在地近傍はオレンジ及びレモンの産地としては最も名高く其菓園の遠く連れる有様は實に見物だ。吾人は ローサンゼルス地方に殆んど十日間滯在したが毎日貪り食したるものはオレンジであつた。吾人は斯の如き美味なる菓物は決して他にないと考へた。吾人がポモナ大學に一夜を送るや吾人は屢オレンジの饗應を受けた。而して吾人が記臆せねばならぬとは此美味比類なきオレンジの多數は日本人の手に依りて毎年摘み採られつゝあることである。オレンジの摘取は受負事業であつて一箱幾仙といふことになつて居るさうだ。然るに我同胞は此の如き仕事には最も敏捷であり且つ受負事業

となれば夢中に働くと云ふ性質があるから、早朝より日暮に至るまで熱心に働くさうだ。これが爲め最も熟練したるものは毎日十弗以上の賃銀を得其最も少き者も三弗半を下ることはないといふことだ。勿論此の如き仕事は年中續くといふのではないけれども。此事業が終れば亦他に相當の働きを得ることは容易なることである。

余はポモナ大學に至つた時或教室に入りて生物學の講義を聽いた。某教授は恰も昆蟲の說明をなしつゝあつたが、其昆蟲が甚しくオレンジ及び其他の菓實に災害を及ぼすことを說き同時に其驅除法に說き及んだ。所が講義は何時の間にかレモン摘取の事に及び日本人の爲に氣焰を吐いて呉れた。彼の言ふ所に依ればレモンを摘取るには非常の注意を要する。若し一二尺の距離よりこれを籃若くは箱に投げ入るゝ時には內部の肉を毀損して忽ち腐敗し始むるが故に一々叮嚀にこれを籃の

第三章　事業は勞働者を待つゝあり

ベーカースフヰールド附近の石油坑

内に入れねばならぬ。然るに白人は幾たび命せられても忽ちこれを怠るけれども日本人は嘗て其命令に背きたることはない。故にオレンジ及びレモンの摘取は殆んど日本人の專有に歸するの有樣である。教授は吾人が傍聽せるを見て愛想よき米國人の常として此の如きことを言つたのかは知らぬが、兎に角我同胞が菓實の摘取に於て大なる利益を得つゝあるのは明である。

ローサンゼルスより桑港に歸る途中余はベーカースフキールドとフレズノの二都會に各二日を費した。前者は僅に人口八千の小都會に過ぎないから余は多分我同胞に逢ふことはないだらうと豫期して居た。然るに彼地に至れば吾人の爲に盛大なる歡迎會は開かれて五六十名の同胞と一堂に會することが出來た。此都會は十四年前に四百人を有する一小村であつたが數哩を離れたる所に石油坑の發見せられたる爲め長

足の進歩をなしたとのことである。吾人が同地に着したる翌日同胞諸士は吾人の爲に數輛の馬車を備へ石油坑の見物にと吾人を案内して呉れた。坑區は十哩四方に亙り見渡す限り汲上げ器械が林立して居るのである。石油坑の所有者は澤山あるが中にもスタンダード石油會社は其重なるものであるさうだ。石油は純粹の物でなくコールタールの如き眞黒なる流動物であるこれを精製すれば普通の石油になるけれども多くの費用を要するが故に其まゝで種々なることに廣く用ゐられて居るさうだ。此石油坑に働いて居る日本人も數十人あるので。吾人が彼地に至つた時には茶菓の饗を受けた。ベーカースフキールドに於て最も古く居住して居るのは和歌山縣人村上捨松君である。同君は十四年前から同地に在りて働いて居るが今は日本人の爲に下宿屋を設けて居る。尙は同君は大に白人の信用を得て今は警

察署から重要なる任務を托せられて居る位だ。其他の同胞は旅館にて働いて居るものもあり。料理屋、球突場などを開いて獨立の事業をやつて居る人もある。兎に角此處も一方に石油坑を控へて居るのであるから我同胞の働き場としては輕々に看過してはならぬ。

フレズノの葡萄園

フレズノは人口三四萬もあらんかと考へらるゝ都會なるが、此附近には十五萬エーカー（一エーカーは我四反十八歩許）の葡萄園があるからフレズノは我四反十八歩許）の葡萄園があるから其栽培及摘取の爲に日本人の集まり來るもの五千人に及ぶさうだ。葡萄の摘取も矢張受負事業であり且つ其期日になれば一週間位に摘み終らねばならぬので勞働者は全く戰爭でもするかの樣に一生懸命に働くさうだ。彼等が平均幾何の賃銀を得るかは聽き洩らしたが多分オレンジ摘の賃銀と大差はなからうと思ふ。吾人は一日同胞諸士に案内せられてカート子十氏所有の葡萄園を見に行つたが、此時は未だ摘取の時期

オレゴン州及びチシントン州の事業

でなかつたに拘はらず數十名の日本人は疎末なる木造の小屋に共同生活をなしながら農園で働いて居るのを見た。近頃此地の日本人中には漸次土地を購ひ若くはこれを借りて獨立に葡萄の栽培を爲すものが增加しつゝある。葡萄の摘取は殆んど日本人の專有事業となつて居るから農業に志ある人は宜しく此方面に注意すべしだ。

オレゴン州やヲシントン州の材木事業、農業、漁業はこれ亦實に盛なるものである。ヲシントン州だけで云ふも年々材木の產出額は二千萬弗以上である。材木製造會社、屋根板製造會社、伐木場等の數は幾千といふ有樣で一日の製造高は合計五萬八千弗であるといふことだ。殊にポートブレックレーといふ製材會社は世界第一で此處のみに働きつゝある日本人だけでも三百名に達して居る。其他漁業の如きも三千萬弗以上の收獲がある。農業に至りては更に多額の生產があるのである

第三章　事業は勞働者を待ちつゝあり

一萬三千弗を貯蓄したる新聞賣子

が其詳細なることは第一章に陳べてある。

太平洋沿岸の北米は此の如く天産物に富んで居るが成功は曾に此等の天産物を收得するといふことのみに伴ふのではない。如何なる職業をなすも功名手に唾して得べしといふ有樣である。勿論天は懶惰者に幸する樣なとはない。忠實と勤勉を以てするにあらざれば決して成功をすることは出來ないのである。余は桑港に滯在せる間に一の感ずべき事實を聞いた。それは同地の新聞紙に出て居た事實であるから決して想像話ではない。桑港の市街に立ちて常に新聞紙を賣つて居る一少年があるが先般一萬三千弗許を投じて土地を購つたといふので彼は資本家なる新聞賣子といふ評判を得た。彼は今年僅に二十二三歳の青年であるが如何にして一萬三千弗の大金を得たのであらうか。某新聞記者は親しく彼に就て其經歷を聽いた。然るに此青年は大略左の如き返答

をなしたさうだ。『余は殆んど七年間新聞紙を賣つて居るが此頃では每月二百弗の收入がある樣になつた。此の如き收入を得るには每日七百枚以上の新聞を賣らねばならぬ。每日時間を違へずに一定の場所に客を待つて居ることだ。客の方でも余が必ず一定の場所に居ることを知ればたとひ余の所に來るまで幾人の新聞賣子に出逢ふとも決して購はない。必ず余の居る所まで來つて購ふのである。彼が一たび余の客となれば余は彼を失はない樣に全力を盡す。これは決して彼に媚びるのでも何でもない。唯彼を失望させない樣にドンナ時にでも定めたる場所に彼の來るを待つて居るのである。亦余が一たび信用したる人には其都度に價を請求するのは面倒だと思ふから信用貸をなし一ヶ月の後に一纏にして受取るのである。余は斯くして多くの客を得今は一萬三千弗を投じて土地を購ふ

在米同胞中の成功者

に至つた。種々なる人は余に會社員たらんことを勸め、若くは善き位地を與へんと言ふ人があるけれども。二百弗の收入を余に與ふる此事業は決して放棄すべきものでないと信ずる。職業に高下の差別はないから余はこれを棄てゝ他に移るの必要を見ない』これ慥に米國人の氣質を善く表明したるものではないか。兎に國米國では新聞賣子ですら毎月四百圓を儲くるといふ好機會があるのである。勿論斯の如きは非常の例外で百人の中に一人位しかないかも知れないが、我國では如何なる勤勉家が出ても新聞を賣つて毎月百圓の收入を得るさへも不可能の事である。これを思へば北米の天地ほど有爲の青年の驥足を伸ばすに都合のよい所はない。

在米の我同胞中には空手巨萬の富を得た人が夫分ある。余は茲に投機的の事業をなして一時に資產を造つた人々の話を爲す積はない。唯實

直と勤勉を以て成功した人々の事を話して見たい。長澤鼎君は夙に在米成功者の一人として數へらるゝ人であるが彼は桑港を北に距る數十哩サンタローザと云へる小都會の附近に於て一大葡萄園を有し盛に葡萄酒の製造に從事して居る。土地の面積は二千エーカーであるといふことだから大略我青山練兵場の四倍位と見て宜しからう。牛島謹爾君は桑港の附近に於て四千エーカーの土地を有し主として馬鈴薯の生產に從事して居る。彼の多量なる馬鈴薯は常に桑港の市場に現はるゝのであるが其市價の一高一下は實に彼の手中に在るといふ位である。此二人は農業界の成功者であつて今は各數十萬弗の資產を有して居るが彼等が今日の位地に進むには非常の苦心と勤勉とを要したのである。彼等が今日の成功を見るまでには十五年乃至二十年の星霜を費して居る。牛島君の如きは事業に着手してより七八年間は嘗て新聞紙を手に

したことがなかつたさうだ。成功者が其事業に熱中するは概ね斯の如しである。

商業界の成功者

商業界の成功者として余の知れるものは桑港の堂本、駒田の二君。シャトルの古屋君、フレズノの神川君等である。堂本君が渡米したのは三十年前の事であつて始め十年間は旅館のボーイなどをして働いたさうだ。今は桑港に大なる商店を所有しオークランドに大なる植物園を有し盛に植木の販賣をやつて居る。若し數年の後在米の日本人中百萬弗以上の資產を得るものがありとすれば堂本君は其先鞭者ならんと評する者がある。古屋君も今こそシャトル、タコマ、ポートランド等に盛なる日本雜貨店を開いて居るけれども十數年前までは北米の各地を漂泊して隨分辛酸を嘗めたといふ話である。然し今や此等の人々は何れも成功の好模範を吾人に示して居るのであるから余は北米の事を記するに當りて彼等に感謝の意を表せざるを得ない。

第四章　何故に多數の日本人は成功せざるか

渡米せる者は多い然し成功せるものは少ない。一方には既に巨萬の富を積みたる我同胞のあるに拘はらず我邦人の十中八九までは未だ成功といふ位地に達し居らざるは何の爲であらうか。前章にも述べたる如く北米の天地に於ては無職業の爲に苦むといふ樣なことはない。寧ろ事業が働き人を待ちつゝある有樣であるから事業を見出すには何等の困難もないのである。曾にこれのみならず時としては五弗若くは十弗

第四章　何故に多數の日本人は成功せざるか

位の賃銀を一日にて得ることも出來る。然らば單に勞働者としても毎月十弗若くは二十弗の貯金をなすことは六ヶ敷ことでない。余は彼地の人々より親しく聽きたる所に依り斯く斷言して憚らないのである。惜いかな多數の日本人は種々なる誘惑に逢うて其儲けたる金を惜氣もなく浪費するのである。彼等は如何なるとの爲に其金を費しつゝあるか。或者は酒の爲に。或者は女の爲に其一部を費すものもあらう。然れども其最も甚しきものは賭博と富籤であるといふことを聽いた。酒と女に金錢を費すも賭博と富籤に金を費すも。これを道德上より見れば何等の相違もないであらうが金錢を費す多寡に至りては二者の間に著しき差がある。酒色の爲にするものは比較的少額であるけれども賭博に至りては殆んど際限がない。一たび此惡習に染めば常に囊中を傾けて投機を試むるのである。清國人が賭博に耽ることは人々の知れる

所であるが。日本人の多數も常に清國人が經營せる賭場に出入して賭博を試みるのである。故に日本人は其儲けたる金を清國人の爲に吸收せられつゝあるといふても宜しい。富籤も其性質に於ては賭博と同樣で其投機的なること其面白き點に於ては少しも相違はない。彼等の間に盛に行はれて居る富籤は「バカッペー」と稱するものであるさうだが、其名から考へて見ても馬鹿らしきものであるといふことは分る。中には隨分大仕掛のものがあつて米國人のやつて居るルイジヤナ富籤などは政府にて禁じて居るにも拘はらず日本人のこれを買ふもの頗る多いといふことだ。桑港の或商店に働いて居る日本人は毎月己が得る所の金を悉く富籤の爲に投じたさうだが先般幸か不幸か七千五百弗許の籤に當つたさうだ。此の如き事が折々あるものだから慾に目のなき人々は無暗に此投機的仕事に熱中するのだ。若し此等の人々が此の如き惡

習に染むことなくして忠實に貯金をして呉れるならば、北米の新日本より我本國に年々送り來る金額は二倍も三倍にもなるであらう。然らば國家の爲に多大の利益を與ふるのみならず彼等自身の成功となることは疑ない。これを思へば彼等が此誘惑の奴隷となり居ることは返すも殘念なることである。

墮落の原因

然し我が同胞が滔々として此惡弊に陷りつゝあるは獨り彼等の罪のみではない。詳細に研究し來れば余は彼等の爲に深厚なる同情を寄せざるを得ない。凡そ吾人の生活に適當なる娛樂の必要があることは論ずるまでもないが果して在米の我同胞は斯の如き娛樂を有して居るであらうか。白人は劇しき勞働を爲したる後一たび其閑暇を得れば妙齡の女子を友人として交際することも出來る。若し亦ホームを有する人ならんには妻子と共に團欒の樂をなすことも出來る。よし斯る境遇にあらずとするも彼等の交際的なる善く男性を糾合して俱樂部を組織し種種なる遊戲を試むることが出來る。然るに我邦人の多くは獨身者であるが故にホームの快樂を味ふことは出來ない。さらば白人の女性に交際を求めんか。これ亦種々なる困難がある。學校に學びつゝある學生ならば女子と交際するの機會もあれども單に勞働のみなしつゝある人は斯る機會を得ることは殆んど出來ない。さらばといつて日本人は男性だけ打寄りて愉快に樂むことが出來るかといふにこれ亦甚だ覺束ない。球突は彼等の唯一の遊戲であるが其以外には殆んどこれといふべき娛樂の方法を有して居らぬのである。テニスとかベースボールとかいふ戶外運動は殆んど日本人の關係せぬ所である。斯の如き情態であるから渡米後一二年は一生懸命に働きもすれ、漸次年を重ぬるに從つて彼等は其生活の如何にも無味乾燥なるを自覺し始むるのである。朝

早く起きて仕事を始め晩に至りて我宿所に歸れば我を待つの家族なく
レストラントに至りて晩飯を濟まし少しく散策を試みたる後冷なる寢
床に入りて眠るの外はない。是れ多數の人々が三百六十五日間常に繰
返す所の日課であるが何んと無意味のものではないか。斯る境遇に在
りても尚ほ誘惑に勝ち得るの人は、固に成功の途に上ることが出來るで
あらうけれども、普通の人々が終に志を棄てゝつまらぬ惡習に陷るの
は是非もなき次第である。

如何にして救濟すべきか

以上陳べたる處に依れば在米の我同胞が多くの金を儲けつゝあるにも
拘はらず充分の成功をなすことの出來ぬ理由が明白になつたと思ふ。
或政治家などは渡米の無益なることをさへ論じて居る位だ。成程目下
の如き有樣が永く繼續せらるゝとすれば北米の新日本は必ずしも有望
なる移住地といふことは出來ぬかも知れぬ。然れども斯る情態を生ず

るに至つたには何か深き原因のあるのではなからうか。何故に四千哩
の波濤を蹴つて雄飛を試みたる青年が斯くも容易に誘惑に陷るのであ
らうか。これは我國の政治家が愼重に考へねばならぬ問題である。

在米同胞者中に女子少なし

第五章　女子の渡米を奬勵すべし

余は種々なる點より觀察を下し種々なる人の說を聽いて女子を多く彼
地に渡航せしむるの必要を感じた。我同胞を無味乾燥なる生活より救
ひ出さんとするには多くの女子を渡米せしむるに如くはない。余が得
たる所の統計表に依れば六萬の我同胞中女子は僅に二三千に過ぎない

第五章　女子の渡米を奬勵すべし

樣である。「日米」新聞社の發行したる「在米日本人年鑑」に依れば加州在留の日本人は四萬一千六百十五人にして其内妻帶者は一千七百二十二人である。斯る境遇の中に在りて我同胞に道德の堅固ならんことを求むるは抑も無理なる注文ではないか。吾人本國に在るものは家族に於ても交際場裡に於ても多く婦人に接するの機會を有して居るから斯る問題に心を勞するとはないが、在米の同胞に取りては決して左樣でない。彼等は白人と交はるの便宜を有せざるが故に勢ひ日本女子を友人とせねばならぬ。而も日本女子の數は極めて少くして十人中の一人にも足らぬといふ有樣であるから男子は殆んど孤立の姿である。或知人は余に語つて曰つた。若し渡米後十年間も堅固に道德を維持する人あらば其人は殆と半狂人である。故に青年は墮落するか半狂になるか二途其一を擇ばねばならぬ。これ頗る奇矯の言に近しと雖も亦幾分か彼

地の同胞が如何なる感想を懷いて居るかゞ分る。本國の青年は多くの婦人に接するの機會を有するのみでなく若し結婚せんと思はゞ何時にても其配偶者を得ることが出來る。彼等の多くは二三年若くは四五年の間に宜を有つて居らぬのである。然れども彼地の青年は此の如き便數千弗の貯金をなすことが出來るけれども、此時に於て彼等は結婚しホームを造るの便宜を有せざるが爲に終に墮落し始むるといふことである。讀者は彼等を薄志弱行の徒なりと賤むるかも知れないが、余は寧ろ彼等の境遇に對して少からぬ同情を寄するのである。

然らば我政府は成るべく妻帶者を渡米せしむるの方針を採るべしと論するものがあるかも知れぬ。勿論これも必要なることであるから余は これに贊成するのである。然れども渡米者中には多數の青年があるので、彼等は大志を抱いて太平洋を超ゆるのであるから無論結婚などし

第五章　女子の渡米を奬勵すべし

て始めて渡米するといふ樣な餘裕はない。彼等は數年を彼地に送り幾分の成功をなしたる後始めてホームを造らんとの希望を生ずるのである。然らば彼等は何故に日本に歸りて適當なる妻を得再び渡米を企てざるやと問ふ者あらん。これ一應尤なる事の如く聞ゆれども實際に於ては甚だ困難なることである。第一彼地に於ける職業を中止し多くの旅費を使ひて單に結婚の爲め歸朝することは言ふべくして行はれざるの事ではないか。第二に彼等は果して容易に好配偶を得ることが出來るであらうか。男子の洋行は今や普通の事となつたけれども女子の洋行は決して左樣でない。若し自ら進んで渡米すべしといふ女子ありとするも其兩親の許可を得るとの出來ないものもあるであらう。數年前在米同胞の一人は歸朝して適當なる配偶者を得んとしたが多くの困難を經て終に其目的を達したといふことである。其人は其當時十萬弗以

上の資産があつたのだから若しこれが內地に在つての結婚であつたならば妻君の候補者は澤山にあつたに相違ない。して見れば巨萬の資産があつても自分の娘を在米者に嫁せしむるとは隨分躊躇する人が多いと見ゆる。

然らば在米の同胞は何故に白人を娶らぬのであるか。既に外國にまで も踏み出したのであるから人種上の僻見などは取去られて居る筈である。若し生涯北米の地に在りて事業を爲す位なら白人を妻にするのは萬事便利ではないかといふ人もあらう。然しこれには實際我內地の人人が想像し得ぬ困難がある。米國人は必ずしも人種の不同といふ點で日本人と結婚することを嫌ふといふことはない。現に米國人の女子にして日本人の妻となつて居る者は少なくないのである。其處で實際の困難は人種上の事ではなくて財政上の事であるのだ。概して西洋人は

第五章　女子の渡米を奬勵すべし

女子の渡米は必ずしも結婚の爲にあらず

生活の程度が高いが殊に米國の婦人は贅澤を極めて居る。彼等は充分幸福なる即ち衣食に不自由のないホームを造ることが出來るといふ目的が立たなければ結婚はしない。生涯貧乏で家政の爲に苦む位ならば寧ろ自分で働いて安樂なる獨身生活を送つた方が善いと云ふのが彼等の處世法である。故に米國の女子を妻にせんと思ふものは充分財政に餘裕がなくてはならぬ。若し此等の準備なくして輕々しく結婚することあらば彼は不幸なる生涯を送るのみならず終に破産の厄運に逢ふかも知れぬ。我在米の同胞が米國の女子と結婚しないのは斯の如き理由のあるからである。

然らば唯一の途は今後多くの女子を奬勵して渡米せしむることである。是は單に我移住地の基礎を鞏固にし其事業を成功せしむるのみでなく我女子の間に萬里遠征の雄心を盛ならしむることになる。日本の醜業

婦が南洋に西比利亞に或は北米の地に萬難を排して渡航せることは吾人の屢聞きたる所である。何故に我邦の教育あり品性ある女子は正當なる事業の爲に海外に雄飛することが出來ぬのであらうか。余は日本の膨脹は獨り男兒の洋行のみを意味するのではないと思ふ。若し我邦の女兒が男兒と共に海外に雄飛するの元氣を現はすにあらざれば我邦の膨脹は決して望むことは出來ないと思ふ。然れども余は讀者の誤解を避けんが爲に辯解して置きたい事がある。余が女子の渡米を奬勵せんとするのは彼等をして在米の男兒と直に結婚せしめんと言ふのではない。若し結婚せんが爲に渡米するといふのであらば有爲の女子は必ず快よく思はぬであらう。亦女子の渡米を奬勵する上にも多少の遠慮がなくてはならぬ。余は勿論渡米したる女子が適當の配偶者を得て結婚せんことを望むのであるけれども強いて結婚を勸むる樣なことはしない。

女子の仕事

よし結婚せずとも女子が彼地に於て適當なる働きを見出し得るが故に決して男子の助を借る必要はないのである。余は今少しく女子の働について陳べて見たい。

女子の仕事も種々であるが、其最も適當なるは媒婆或は下女である。我邦に於て教育ある女子が下女奉公をなすが如きは思ひもよらぬ事であるが米國に於て下女の働をなしたりとて左程不思議な事はない。勿論彼地に於ても下女の仕事は多少賤められて居る所があるから給料は少なくても店の賣子になる方を好む女子もある様だけれ共、概して言へば日本に於けるが如く職業に貴賤上下の區別を設くることはない。故に教育ある我女子が彼地に於て下女奉公をなしたりとて怪むべきこともなければ亦これが結婚の妨害になる様なこともない。余は或時一人の教育ある日本婦人に逢うて種々其の經驗談を聴いた。凡そ誰にても

も下女の働きを爲さんとするものは先づ料理や洗濯掃除などの事を習ふ必要があるから二ヶ月位は俸給などに構はずしてどんな處にでも住込んで働くさうだ。斯の如くして一通り料理法などを心得れば漸次に賃銀の宜しき所を選んで轉住するのである。始の間は言語に慣れず料理洗濯などの事も多少困難を感ずれども數月を經れば左程にもなくなるさうだ。其婦人は相當の教育もあり品性も確實であるが今は相當に地位のある家庭に在つて下女の勤をなして居る。少しも交際することをしないから、入費を要することはない。主婦は流行を追うて常に衣服を新調するから其古き衣服は常に仕立直して自分の物とする。斯の如き有樣であるから自分が得る所の賃銀は悉く殘る譯になる。其處で彼は毎月五拾圓を鄉里に送る事が出來るさうだ。

余は亦ローサンゼルスの旅館に於て一人の日本婦人の訪問を受けたこと

第五章　女子の渡米を奬勵すべし

とがある。余は其談話を聽いて深く感ずる所があつたから其大畧を述べて見やう。此婦人は某女學校の卒業生で結婚後夫と共に渡米しロサンゼルスを去る二哩許の所に三十エーカーの土地を購ひてトマトー（赤茄子）の栽培に從事した。然るに中途夫の死に逢いて彼は全く孤立となつたから親戚の人々は頻りに彼の歸國を促したけれども、彼は尚ほ其志を飜すことなく今はトマトー栽培に熱心して居る。彼は一見甚だ繊弱なる婦人である。然れども苗の植付から灌水に至るまで自ら手を下してやつて居る。仕事の最も忙はしき時には二三名の日本勞働者を雇ふとはあるさうだが。毎朝トマトーを摘み取りて籃に入れ馬車を驅りて之を靑物市に運ぶのは彼自身にやつて居る。彼は余に曰つた。『日本に於ては婦人の身として斯の如き農業を爲すとは到底出來ぬことでありますが。米國は幸にして婦人を大事にするの習慣がありますから私が毎朝市場に參れば男子が來つて種々と手傳つて呉れます』。而して余は更に幾何の金を拂うて土地を購はれしやと問ふたが。一エーカーに付き百三十弗を拂ひしに今は電車が其側に通ずることゝなつたから其地價も四百五十弗に騰貴したとの返答であつた。して見れば此婦人は二三年の間に地價だけで一萬弗許の利益を得て居るのである。素より斯の如きは例外であつて如何なる女子でも農業が出來るといふ譯ではないが、兎に角米國に行けば女子でも職業に困るといふことはないといふ一二の實例を示したに過ぎないのである。

民間の政治家も政府の當局者も北米の移住地に付きて充分なる注意を拂うて居るものは極めて少ない樣に見える。時としては隨分殘酷なる批評も聞ゆる樣だ。單に移住民の墮落を嘲り彼等の貯蓄心に乏しきを責むるのは過酷である。余が漸次陳べ來りたる所に依れば彼等墮落の

女子の渡米を援助する法

主因は明瞭であるではないか。此點に關して充分なる救濟策を施すこともなく漫に移住民を攻撃せんとするのは不親切である。我當局者が女子の渡米に關して一層嚴重なる態度を取り居るは醜業婦の渡米を拒絶する爲であらう。然れ共北米移住地の浮沈が主として此問題に關係するを思へば我當局者も將來に於て大に考ふる所がなくてはならぬ。一方に醜業婦の外出を取締ると共に一方には身分の慥なる女子の渡米を自由にし、否之を奬勵せねばならぬ。これと同時に在米の有志者は渡米女子の爲に適當なる保護の途を設くることが肝要である。女子は男子と異にして適當の保護者なくして渡米することは出來ぬ。米國上陸後彼等の爲に適當なる宿泊所がなければ彼等は種々なる危險と困難に遭遇するであらう。

前に述べたる協議會に於ては女子の爲に寄宿舍を設け親切なる監督をなすべしとの議があつたことを聞いた。これは目下必要なることであつて、若し日本女子の爲に嚴重なる監督をなし適當なる仕事を周旋して呉るゝ事ならば今後渡米を企つるの女子は漸次增加するに相違ない。余は亦內地に於ても斯の如き目的を以て團體の成立せんことを希望する。若し信用ある人々が團體を組織して女子の爲に渡米の周旋をなしあらゆる便宜を與ふることゝならば有爲の女子は必ず雜飛を試むるであらう。余は戰後の經營として斯る方面にも我國民が進取の精神を發揮せんことを望まざるを得ない。

第六章　日本人排斥問題

排斥問題の眞相

排斥問題は勞働問題にあらず

支那人を排斥したるが如く太平洋沿岸の米國人は更に日本人を排斥せんとして居る。曾ては我同胞に同情を宿せたる桑港のクロニクル新聞を始めとしてコール及びエキザミナーの二大新聞も近頃鋒を揃へて日本人排斥軍に加つた。加州選出の代議士は屢米國議會に於て排斥論を唱へ太平洋岸の諸團體中にも之に和同するものがあつて形勢頗る不穩である。これ將來渡米せんとする人々に取りては大なる障害であるから、余は聊か見聞したる所に依り排斥問題の眞相を究めんと思ふのである。

日本人排斥の正面の理由は何であるかといふに日本勞働者の生活の程度は甚だ低きが故に若し彼等の多數が來つて米國勞働者と競爭するに

至れば後者は終に其職を失ふか若くは前者の生活程度に墮落することを覺悟せねばならぬ。抑も米國人に取りて生活てふことは單に必要なる衣食を得るといふことだけを意味するのではない。文明國の生活てふとは必要なる衣食住に加ふるに多少の娯樂とか贅澤とかを以てするのである。毎週一度位は芝居にも行けるといふ餘裕がなくてはならぬ。若干の書籍も必要であるからホームにはピヤノもなくてはならぬ。然るに日本勞働者の得るが如き賃銀を以て滿足せざるに至らば是れ米國人の生活に取りては墮落であり破滅である。然らば自衞の途として米國の勞働者は日本人の渡航を拒絶せねばならぬのである。これは余が屢聞きたる議論であるが果して米國の勞働者は彼等の言ふが如く日本勞働者の爲に迷惑を蒙りつゝあるか。加州は殆んど日本全土の面積を

有するに拘はらず其人口は僅に百五十萬乃至二百萬である。此一事を考へても日本勞働者と米國勞働者の間に激しき競爭があらうとは思はれない。殊に日本人の最も多く働きつゝなる葡萄、オレンヂ等の摘取は米國勞働者の多く關係せざる所であつて、概言すれば我勞働者と彼勞働者とは各其勞働の區域を異にして居るのである。まして加州の地は沃野千里といふ有樣であるから無益なる競爭の起るべき筈はない。他年一日我同胞が六十萬となり六百萬となる時には多くの大工鍛工石工を生じ彼等と競爭を始むることもあらんが、目下の有樣にて米國勞働者が競爭を恐るゝなどゝは單に一の杞憂に過ぎないのである。日本人排斥の聲は今日に始まつたものではない。日本人の數が僅に七千人にも足らなかつた時分から此問題はあつたのだ。してみれば勞働問題により日本人の排斥が起つたなど考ふるのは全く皮相の見に過ぎない。

一方より見れば排斥問題は頗る滑稽である。資本家の所有せる新聞紙は鋒を揃へて日本人を排斥しつゝあるに拘はらず便船のある毎に布哇より數百の日本勞働者を輸入しつゝあるものは資本家である。余が乘りたるコレヤ號は布哇より七百餘名の日本人を搭載した。聞く所に依れば彼等は何れも米大陸の資本家と契約して渡航するのであつた。今や布哇は日本人の爲に一の踏臺となつた。渡米せんとする者は先づ布哇に渡航し其れより米大陸に進むのである。故に布哇の領事齋藤氏は外務省に上申して若し渡米者の取締をなさんとならば宜しく先づ布哇の渡航者に制限を加ふべしと言ひたりとかにて余がホノルゝに着せし時は新聞紙が齋藤領事を攻撃するの最中であつた。余は領事が果して我外務省に向つて斯る上申を爲したるや否やを知らぬ。然れども布哇の日本出稼人が續々米大陸に進みつゝあるは事實である。然らば資本

家の一部が盛に日本勞働者を迎へつゝあるに反して一部の資本家が新聞紙上排斥論を唱へつゝあるは是れ單に米國勞働者の歡心を得んが爲に仕組まれたる一種の演劇ではなからうか。

米國人中にも異論者あり

若し日本人の排斥が實行せられたりとすれば加州及び其他の諸州に於ける生産は大に打撃を蒙むることはあるまいか。米人中には日本人排斥論に反對する人もある。彼等の言ふ所を聽くに。若し日本勞働者を排斥するが如きことあらば葡萄の栽培や摘取の如き事業は果して誰の手に依りて爲さるゝであらうか。僅々一週間内に十五萬エーカーもある葡萄園に於て摘取をなすが如きは決してこれを白人の勞働者に望むことは出來ない。啻に菓實のみと許りではなく林業に於ても漁業に於ても多大の打撃を蒙むることであらう。此等の點を考へても日本人の排斥は容易に行はるゝものでない。然らば日本人排斥の理由は勞働問題

露政府の煽動に因るといふ說

にあらずして他にこれを求めねばならぬ。

或人の言ふ所を聽くに近時日本人排斥の聲が高まつて來たのは日露戰爭の結果である。加州に於て金權を握れるは猶太人であるが政權を握れる者は愛蘭土人である。人々も知れるが如く愛蘭土人は久しく英國人に怨恨を懷いて居るのであるから其結果として英國の同盟國たる我日本に對して不快の念あるは免れ難い。其處で露政府は此間の消息を利用して愛蘭土人を買收し以て日本人排斥をやらせて居るのである。吾人は此說に對しても餘り多く信服するものではない。何となれば排日本人說は日露戰爭前より起れる問題であつて今更の事ではないからである。且つ露國政府が斯る小事にまでも惡策を弄すべしとは殆んど吾人の信ずること能はざる所である。然らば排日本人說の眞相は何處に在るか。余はこれを人種上より生じたる僻見に起因するものと信せ

人種的僻見

ざるを得ない。

亞細亞人は曾に顏色に於て泰西人と趣を異にして居る許りではなく、生活の有樣に於ても思想感情の傾向に於ても大に同じからざる所がある。殊に宗教の異なることは人種的僻見を生ずる主要なる原因であると言はねばならぬ。基督教は世界主義。人類同胞主義ではないかと言ふ人もあらう。然れども多數の基督信徒は單に形式的信徒であつて宗教神髓を味へる者ではない。殊に愛蘭土人の如きに至りては迷信的に宗教を信ずるもの多く他宗排斥の念は最も彼等の間に盛んである。或米人は余に語つて曰つた。若し在米の日本人が擧げて天主教信者となることあらば日本人排斥の聲は忽ち止むに至らんと。これは少しく極端なる說であるかも知れないが而も其中に眞理の含まれて居るのは明である。吾人は如何にして此人種的僻見に對せねばならぬか。

我政府の覺悟

勞働問題といふことであれば表面日本人排斥の理由とすることは出來るけれども人種上の問題はどうしても公然の理由とする譯には行かぬ。兎に角米國は基督教國として知られて居る國である。然るに黃色人種は氣に喰はぬから米國に入れることが出來ぬなどゝいふ樣なことがあらば彼等は最早我國や支那などに基督教の宣教師などを送る面目はないのである。其所で表面には勞働問題を揭げて居るのであるけれども之は前にも論じたる如く殆んど理由として認むるだけの價値はない。然らば我日本人の採るべき方針は我政府をして益々強硬の手段に出でしむるより外ないのである。然るに我政府が今日採りつゝある態度は全く吾人の思ふ所に反して居るのではないか。一言にしてこれを蔽へば我當局者は戰々兢々として米國政府の歡心を失はざらんことを勤めて居るらしい。國民的膨脹の精神は其高潮に達して居るに拘はらず政

府は種々なる制限を設けて邦人の渡米を禁遏せんとして居る。嘗て渡米を企てたことのない人々は、政府の干渉が如何に烈しきかを知らないだらうがこれに關係した人は何れも其嚴重なるに驚いて居る。多數の渡米志願者は譯もなく拒絶せらる。而も其拒絶せらるゝ理由は明示しないのである。若し渡米を志す所の青年が旅行券を請求する時に單に勞働の爲め洋行するのだと言はゝ政府は決してこれを許可しない。故に何れも修學の爲に渡米するのだといふ觸込みで願書を出すが、さうなると政府は其者の財産調をする。若し學資を出す程の資力が父兄にないと見れば勿論旅行券を與へぬのである。多數の青年が果して渡米後修學して居るか若くは勞働して居るか位は日本の領事に聽いて見ても分るではないか。渡米者の多數が學問の爲でなくて金儲の爲であることは誰でも認めて居る事實である。而も勞働の爲め渡米する人は

渡米者を制限せんとするは近眼的政策なり

何れも資産のないものである。資産がある位なら始めから渡米するの必要もない。然るに政府が渡米者の資産を調べて資産なき者にはなるべく旅行券を與へぬといふ方針を採つて居るのは甚だしき撞着ではないかと思ふ。

貧乏なる日本人が多く渡米することになれば其中には領事館に來りて職業の周旋を請ふものもあり亦歸國の旅費などを乞ふものが出來る。我政府が渡米者に制限を加ふるのは之がためだと言ふ人もある。然しこれは事實にも反し理屈にも合はぬ説である。渡米したる人が容易に職業を見出し得るは前に陳べたる通りであるから彼等は殆んど領事館の助を借る必要はない。若し疾病等の災難の爲に折々領事館を煩はす人がありとしてもこれは極めて少數である。桑港には慈惠會なるものが組織せられて此等不幸の日本人に補助を與へて居るけれども是は決

して領事館の事業ではなくて彼地の同胞の醵金に依りて成立せる仕事である。斯の如き有様であるから貧乏人を渡米せしめぬといふ政府の方針は寧ろ不當と言はねばならぬ。よし渡米者が屢々領事館に厄介を與ふるとするもこれを以て渡米者制限の理由となすに足らぬことは明である。單に金錢の問題のみに付て言ふも我在米の同胞は一千萬圓に近き金を毎年本國に送りつゝあるではないか。然らば政府は我領事館の爲に年々數十萬圓の費用を增加しても尙ほ我在米同胞の爲に種々なる便宜を與へねばならぬといふ義務がある。領事館の費用の增加するを恐れて我渡米者に制限を加へんとするが如きは所謂一文惜みの百損ではあるまいか。

渡米につきては種々なる苦心談がある。これらを一々聽いたならば政府のやつて居ることにも隨分滑稽なることがある。余が嘗て聽いた話

に數年前濠洲より歸朝した一人の大工があつた。日本に歸つて見れば賃銀も馬鹿に安いから今度は米國に出かけて一働きして見たいと思ひ旅行券を請求したが政府は例の如くこれを拒んだ。其處で或人の助言に依り今度は大工道具購入の爲め二三ヶ月を期して渡米したいから許可を得たいといつて願つたが直に許されたさうだ。其後彼は米國に於て大に成功し旅費として借つた二三百圓の金は數月間に返却したとのことである。大工といふが如き職業を有つて居るものが米國に於て困る樣なことは決してない。よし彼には一錢の資產がなくとも彼は腕一本で世界の何處にても安樂なる生活をすることが出來る。此點に於ては學者や政治家などは決して彼に及ぶことは出來ぬ。我國の學者政治家は恰も紙幣の如きもので國內でこそ相當の價格を有するなれ。足一たび海外の土を踏めば鐚一文にも及ばぬといふ情ない有樣だ。これに反し

て一藝ある人間は恰も金銀貨の如きもので世界何處に至つても通用する。大工などは貧乏人だから渡米しても不安心だなどゝ言うて旅券を與へない役人こそ米國に至つたならば紙幣同樣で餘り價格がないかも知れない。余は渡米者に向つて全く制限を加ゆるなと言はぬ。兎に角外國に送り出すのだから多少の遠慮は必要であらう。彼の歐洲諸國が其下層社會の最も不健全なる分子を遠慮會釋なく米國に注入するが如きは餘り善い事ではない。然れども我中學教育を終りたる者とか大工石工鍛工といふが如き定まりたる職業を有するものは其資産の有無に拘はらず直に旅行券を與へて差支はないと思ふ。彼の資産の有無を彼れ是れ言ふが如きは殆んど無益の事である。有爲の青年にして一たび渡米の志を決せんか。彼はあらゆる手段を盡して其目的を達せんとするのである。若し彼等の緣故にして府縣會議員若くは衆議院議員あら

んか。彼等は此等議員に請うて保證人たらしめ以て地方の知事に認可を願ふのである。若し亦親戚中に相當の資産を有するもののあらんか。彼等一言を以て渡米者の爲に保證をすれば旅行券は容易に與へらるゝのである。而も此等の保證人は實際渡米者の爲に萬事の責任を負ふのでない。彼等は全く形式的に保證人となるのであつて彼等が容易く保證人たることを承諾するは其形式的なるを知つて居るからである。斯くても我當局者は尙ほ形式的の事に拘泥せんとするのであるか。

渡米者の志願を容るゝや否やを決するは警察官の職務であるといふことだ。東京の如き大都會は稍々其趣を異にして居る樣だが地方に於ては多く警部の手に依りて決せられて居る樣である。而も其許可を與ふると否とは警察官の手加減に依りて定まるといふことだから驚くでは

ないか。兎に角萬里の波濤を蹴つて渡米するといふのであるから當人に取りては生涯の浮沈に關する大問題である。亦渡米するには少くとも二百圓以上の旅費を調へねばならぬ。全く資産のなきものが親戚朋友の助に依りて僅に旅費の調達をなし、いざ之より渡航といふ一段になつて警察官吏の爲に拒絶せらるゝ。これ實に彼に取りては死刑の宣告ではないか。聞く所に依れば中央政府は地方官をして渡米者に認可を與へしむることを以て幾分か不安心なりと思ひ始めたらしい。彼の移住民を最も多く出したる廣島、山口、山梨三縣の知事は渡米者に認可を與ふるの權を奪はれ、今後三縣の人民にして渡米せんとするものは直接に外務省の認可を受けねばならぬ事になつたさうだ。政府の干渉も亦玆に至りて極まれりといふべしだ。

第七章　政府は何故に渡米者を制限せんとするか

北米の天地は實に寶の山である。我國民に取りては此上もなき結構なる移住地であると言はねばならぬ。然るに我政府は何故に種々の手段を設けて我邦人の渡米を拒まんとするのであるか。或人は之が說明をなして左の如く言つた。我政府は米國政府の依囑を受けて斯の如き方針を採つて居るのに相違ない。何分加洲に於て日本人排斥の聲が漸次高まつて來るのであるから米國の中央政府も幾分か心配する樣になつた。若し今後日本人が續々渡米する樣なことになれば已むなく支那人排斥を實行したる如くに日本人をも排斥することになるから御氣の毒ながら渡米者を出來得るだけ制限して貰ひたいと日本政府に申込んだ

第七章　政府は何故に渡米者を制限せんとするか

のではあるまいか。我政府に於ては英國や米國の歡心を得ることには汲々として居るのであるから一言もなく其依囑を受け容れたものに相違ない。其處で我政府は米政府への約束もあり且つ將來我邦人が排斥せらるゝ樣なことがあつては國辱でもあるから出來得るだけ渡米者を制限しやうといふことになつたのであらう。若し果して左樣であるならば余は幾分か我政府に同情を寄せねばならぬと思ふ。英米の二國は兎に角先進國で我國に取りては最も深き關係があるばかりではなく日露戰爭の起つて以來は財政上の世話にもなつて居る。斯の如き點を考ふれば渡米問題の如きは大事の前の小事であつて辛抱せねばならぬといふ考が當局者にも起るであらう。然れども太平洋沿岸の米國は數千萬の人口を容るゝ餘地があるのだから米國人は決して正當なる理由を以て吾人を拒絶することは出來ぬ。且つ目下渡米者が受けつゝある凌辱

米國政府の我渡米者に對する態度は一種の侮辱なり

は一國の體面に關することであるから余は切に我政府が適當なる解釋の途を得んことを望む。

目下米國政府の我渡米者に對する方針なる者は一種の侮辱である。我渡米者が桑港若くはシヤトルに着するや檢査官は來りて彼等の體格試驗を行ふのである。而も其試驗は頗る嚴密であつて若し眼球或は眼瞼の充血せるを見れば直にこれを以てトラホームと見做し其上陸を拒絶する。斯の如き厄難に逢うて送還せらるゝ者は便船毎に十數人にして時には半數以上に及ぶことがある。近時渡米するものは善く此點に注意して居るから彼等は必ず專門醫の診察を受け更に出帆前には横濱に於て體格試驗を受くるのである。斯の如く注意を加へても尚送還の不幸に逢ふのであるから米國政府の意が傳染病者の上陸を拒むといふのではなくて全く我邦人を拒絶すると云ふにあることは明である。

第七章　政府は何故に渡米者を制限せんとするか

先般渡米者が横濱にて試驗を受けたる時に氣の毒なる事があつた。受驗者の中に三人の息子と共に都合一家四人にて渡米せんとするものがあつた。試驗の結果父と二人の息子は及第したが一人の息子は不幸にして落第した。彼等は全く勞働の爲に渡米する者であつたから一家離散するに忍びず終に他の三人も渡米を斷念したとの事である。思ふに彼等は家を賣りて旅費を調へ遙々田舍より横濱へ來つた者であらう。米國の天地に至りて資産を造らんとの希望の爲に棄て難き墳墓の地を辭するといふ考になつたのであらう。而して今や彼等は如何である大志を埋沒せねばならぬのである。余は横濱か。無殘にも此の勃々たる幾多有爲の人物を絶望の淵に投ずる無殘なに於ける體格試驗をすら る所業であると思ふ。まして米國の大陸を目前に見ながら上陸を許さ れず。終に再び五千浬の太平洋上を送還せらるゝの厄に逢ふものゝ遺

憾は果して如何であらうか。余が本年四月コレヤ號に乘じて桑港に行くや同じ船客の中に廿三四歳なる日本婦人が居つた。彼は大阪府の人で彼の父は桑港に居るのであるから彼を迎へて某女學校に入學せしめんとするのである。彼は久し振で父に逢ふの喜と彼地の女學校にて學ぶの望とに滿ちて何時もいそ〳〵として居つた。又早稻田對スタンホードの野球試合は必ず父と共に見物に出かけんなど語つて居た。然るに余等は上陸後或新聞紙を讀みて彼が上陸を拒絶せられたることを知り實に驚かざるを得なかつた。而も其上陸拒絶の有樣は頗る悲慘であつたのだ。新聞紙の報ずる所に依れば彼は一度上陸を許されて某旅館に落付いた。然るに如何なる間違にや檢察官は彼を許す可らざるものと斷定し、旅館に來りて彼を船に連れ歸らんとした。其所に居合はせたる日本人は其不當を鳴らして抗議し終には檢察官と格鬪するに至つ

先般渡米者が横濱にて試驗を受けたる時に氣の毒なる事があつた。受驗者の中に三人の息子と共に都合一家四人にて渡米せんとするものがあつた。試驗の結果父と二人の息子は及第したが一人の息子は不幸にして落第した。彼等は全く勞働の爲に渡米する者であつたから一家離散するに忍びず終に他の三人も渡米を斷念したとの事である。思ふに彼等は家を賣りて旅費を調へ遙々田舍より横濱へ來つた者であらう。米國の天地に至りて資産を造らんとの希望の爲に棄て難き墳墓の地をも辭するといふ考になつたのであらう。而して今や彼等は如何であるか。無殘にも此の勃々たる大志を埋沒せねばならぬのである。余は横濱に於ける體格試驗をすら幾多有爲の人物を絶望の淵に投ずる無殘なる所業であると思ふ。まして米國の大陸を目前に見ながら上陸を許されず。終に再び五千浬の太平洋上を送還せらるゝの厄に逢ふものゝ遺

憾は果して如何であらうか。余が本年四月コレヤ號に乘じて桑港に行くや同じ船客の中に廿三四歳なる日本婦人が居つた。彼は大阪府の人で彼の父は桑港に居るのであるから彼を迎へて某女學校に入學せしめんとするのである。彼は久し振で父に逢ふの喜と彼地の女學校にて學ぶの望とに滿ちて何時もいそ〳〵として居つた。又早稻田對スタンホードの野球試合は必ず父と共に見物に出かけんなど語つて居た。然るに余等は上陸後或新聞紙を讀みて彼が上陸を拒絶せられたることを知り實に驚かざるを得なかつた。而も其上陸拒絶の有樣は頗る悲慘であつたのだ。新聞紙の報ずる所に依れば彼は一度上陸を許されて某旅館に落付いた。然るに如何なる間違にや檢察官は彼を許す可らざるものと斷定し、旅館に來りて彼を船に連れ歸らんとした。其所に居合はせたる日本人は其不當を鳴らして抗議し終には檢察官と格鬪するに至つ

だが、其婦人は矢張船に連れ返された。其後協議會員と檢察官との間に種々なる交渉があつたけれども結局此婦人は送還せられたのである。此の如きことは屢々行はるゝのであつて悲慘といふよりも寧ろ侮辱であると言はねばならぬ。

余は戰後經營の一として我政府が我邦人の渡米に關して確乎たる方針を定むることを望みたい。吾人は勿論我友邦に對して相當の禮儀を盡さねばならぬと思ふ。然しながら屈辱を忍ぶ理由は少しもない。嘗て露國政府は日本人が魯西亞と云ひて魯の字を用ゆることに抗議を申込み我政府は終にこれを現今の露の字に改めたといふではないか。一國の體面を重んずるといふ點があればこそ國家の必要もあるのである。若し在米日本人の權利を擁護し渡米者の體面を毀損せざる樣我政府に於て充分盡す所がないならば彼等が國家に對して有する難有味も漸次

減却することはないかと思ふ。余の思ふ所にては米國政府は決して日本人排斥を實行することは出來ない。余が前に論じたる如く日本人排斥の眞相は勞働問題でなくて人種問題である。利害の念より起る問題は激烈なる勢で人種問題は感情の問題である。勞働問題は利害の問題であるけれども、感情の問題は常に理性の爲に制せられて公然社會の表面に立つことが出來ない。余は米國人が到底日本人の排斥を實行し得べしとは信ずることが出來ぬ。米國が支那人排斥を實行したる後の結果は如何であつたか。米國商人の中にはこれを以て米清兩國の貿易を沮害するものとして今日でも尙ほ反對して居るものがある。清國の商人は復讐の策として米國品は一切輸入すべからずとの目的を以て結合をなさんとして居る。更に飜つて米國農業界の有樣を見よ。支那人の數漸次減少するに及んで彼等のな

しつゝありし事業は果して誰が繼續したるのであるか。若し太平洋沿岸の米國勞働者が言ふ如く彼等の事業が漸次黄色人種に奪はるゝの恐ありとせば支那人排斥後に於て彼等は必ず其職業を回復したのであらうか。否事實は決して左樣でない。事業は勞働者を待ちつゝあるといふ有樣であるから支那人の減少と共に其事業を繼續するものがない。若し日本勞働者が其後を襲ふといふことがなかつたならば、太平洋沿岸の農業は大打撃を蒙つたに相違ないのである。目下米國の資本家が續々日本勞働者を布哇より呼び寄せつゝあるのは一方に支那勞働者減少の缺を補ひ一方に新事業を興さんが爲であることは明である。然らば單に利害の問題より言へば米國人が日本人排斥を斷行しやう筈がない。唯日本人排斥の聲が聞ゆるのは勞働問題てふことを表面に裝ふた る人種問題の叫に過ぎないのだから深く心配するには及ばない。

我は決して安心すべからず

然し米國政府は決して我日本人を排斥することはあるまいと思うて安心して居るのは得策でないから我政府は宜しくこれに備ふるといふ覺悟をせねばならぬ。萬一日本人排斥を實行するが如きことあらば我も亦彼に向つて復讐的の態度を採るべしである。幸にして我は日露戰爭の結果として朝鮮、滿洲、支那に於ては他の諸國に勝りて多くの權利を有することが出來るであらう。兎に角東部亞細亞に於ては我日本はモンロー主義を唱へねばならぬ。斯る位地に進みたる我日本は最早他國の屈辱に甘んずべきではない。若し米國政府が日本人排斥を實行するの曉は我は其復讐として朝鮮滿洲に於ける米國人の利益を殺ぐの政策を採るも善からう。若し彼にして嚴格なる體格試驗を我渡米者に加ふることを止めざれば我も亦彼の渡來者に對して峻酷なる試驗を行うて差支はない。余が我政府に請求せんとするのは實にこれである。在米數

第七章　政府は何故に渡米者を制限せんとするか

萬の我同胞が其國家に望む所も亦これに外ならぬと思ふ。

日本人と清國人との差

第八章　日本人の同化力

米國人が支那人を排斥したる重なる理由の一は彼等が自國の風俗習慣を固執して少しも米國の風俗に同化せんとするの考なきことであつた。支那人は今日も尙ほ彼等固有の頭髪を貯へ衣服を着し甚しきに至りては鴉片を飲むの惡習さへも輸入して居る。彼等は啻に形體に於て然るのみならず精神に於ても嘗て米國人に同化せんとする模樣がない。然れども我日本人に至りては全く之に反し驚くべき程同化力に富んで居

る。我國が僅々四五十年間に一躍して泰西諸國と比肩するに至つたのは全く此同化力の結果といふても差支はない。余は今回の旅行に於て我同胞が如何なる生活をなしつゝあるやに付き多くの注意を拂つたが我同胞の同化力に富めることには驚かざるを得なかつた。第一衣服の點に就て見るも余は滯在中日本服を着したる我同胞を見たことはなかつた。唯一度ローサンゼルスの歡迎會に於て手踊をなしたる少女が振袖を着て居たのを見たけれども。これすらホンの例外であつて其後彼を見た時には矢張洋服姿であつた。桑港行の汽船中では日本服を着したる日本婦人をも見たけれども。一たび上陸してからは旅宿の下女でも何でも洋服姿の外は見ることが出來なかつた。殊に男子に至りては其服裝全く米國風であつて中には米國人すら三舍を避くる樣なハイカラ的の人々もある。

日本人の清潔

桑港の市街などを散歩すれば伊太利人愛蘭土人で垢染みたる衣服を着し破れたる靴を穿つて居るものも珍らしくはないが余は日本人にして斯る見すぼらしき風をして居るものに會つたことはない。聞けば日本勞働者が始めて上陸したる時には日本服を着し下駄を穿きて隨分如何はしき風采であつたといふことであるがこれは過去の事で現今に於て見ることは出來ない。余が乘りしコレヤ號は布哇より七百人餘の日本勞働者を乘せた。毎晩涼しくなれば彼等は群をなして甲板に出で來り種々なる遊戲をなして笑ひ興ずるのである。彼等の多數は浴衣に細帶といふ服裝で帽子も被らねば靴も穿たず純然たる我國下層社會の情態を現はして居た。若し斯の如き風で上陸するならば必ず米國人に不快の感を與ふるだらうと余は陰に心配して居たがこれは一の杞憂に過ぎなかつた。いよ〳〵上陸といふ間際になり、余は仕度を終りて甲板に立

出でた所が昨日まで如何はしき風采をして居たものは悉く小薩張とした洋服を着て居るのである。而も其洋服は日蔭町や柳原河岸などで出來合物を購つたのとは違つてチャント體に合うて居る。勿論これは怪むにも足らぬことで彼等は何れも布哇に居て若干の金を儲けたのであるから豫ねて洋服の一組位は調へて居るのである。船中の下等室で洋服を着て居るのは不便利だから一時浴衣に換へたのであるけれども彼等は一たび米國大陸に上れば必ず何時も洋服を着て居るに相違ない。これは獨り都會に住んで居る人ばかりでなく田舍にて農業をやつて居るものも同樣だ。余がフレズノの葡萄園を見物に行つた時日本勞働者の合宿所を訪ふた。折惡く働きに出て居て不在であつたが暫時待つて居る間に一人の勞働者は馬車を驅つて歸り來つたが彼は矢張洋服を着して居た。我同胞は愷に同化力に富んで居る。彼等は異樣の風をなし

日本人の食物も米國化しつゝあり

て人々に笑はるゝことを嫌ふ許りでなく心から米國風を好むのである。食物や住居などに至りても我同胞は漸次米國風になりつゝある。中には實際洋食よりも日本食を好むものがあるかも知れぬ。然し多數の同胞が尚日本食をなしつゝあるのは全く經濟上の必要から來るのであつて洋食よりも日本食が好いと云ふ譯ではあるまい。日本人の營業せる旅宿は殆んど悉く日本食を供する樣だ。亦多くの同胞も日本食を食して居る樣だ。之は全く日本食の方が常食としては廉價であるので其他に深き理由があるのではない。或青年などは自炊して居るさうだが若し日本食の自炊をなせば一ケ月五六弗にて食費は濟むさうだ。若し普通の下宿に居て洋食を常食とすれば食費だけに拾五弗位は拂はねばならぬ。斯の如き經濟上の理由がある爲に食物は衣服の如くに米國風に全然同化する程には行かないが、然し此點に於ても我同胞の同化力は

住居も亦然りである

明に認めることが出來る。別言すれば我同胞の多數は慥に米國風の食物を好み漸次其方に進みつゝあるのである。余は在米中幾度も日本料理の饗應を受けた。純粹に日本料理を專門とせる料理屋は例外としては無いが、旅宿とか歡迎會とかにて供せられたる日本料理は決して純粹に日本的ではなく半分は西洋料理といつても差支ない程であつた。食事の後に菓が出でケーキが出で珈琲が出で來るなどは全く洋食の感化力を受けたのだ。これに依りて考ふれば日本人の富が增加するに從ひ我同胞が益々米國化することは決して疑ない。

住居の事は少しく調査するに困難であつたから余は斷言する譯には行かないが多分我同胞にして寢臺を用ゐぬ者は無いだらうと思ふ。余は偶然朝早く或人を訪ふたことがあるが其人が丁度床を離れて起きる所であつたから其部屋の中に寢臺のあるのを見ることが出來た。家は誠

精神的同化力

に疎末であつて階下には唯二室位しかなかつたが而も尚ほ寢臺の備あるを見れば我同胞にして寢臺を用ゐぬ樣な人はあるまい。實は寢臺程便利なものはない。夜分快く眠ることが出來る許りでなく少しく清潔でさへあれば部屋の中に晝間横へてあつても差支はない。其で一々蒲團を疊んで押入に入るゝといふ樣な面倒もないのである。殊に米國には疊を用ゆるといふことがないから勢ひ寢臺を用ゐねばならぬ。一たび此習慣を得れば容易に舊に復ることは出來ない。

以上陳べたる所は形體上の同化であるが精神上に於ても亦同樣である在米同胞の多數はまだ精神的に米國人と同化することは出來ないかも知れないが我國民は慥に精神的同化力に富めることを證して居るではないか。宗教學術文藝の如きに至るまで我國民は何の躊躇もなくこれを輸入して居る。在米の同胞中には多くの基督敎信徒もある。亦彼の諸

我同胞の道徳

大學に在りて學問の蘊奥を究めつゝあるものもある。彼等の中には米國の音樂や演劇を好み亦文學を玩味しつゝある者もある。若し米國人にして人種上の僻見を除去し娯樂を共にするの人種である。彼のスタンホード大學及び其他の大學に學びつゝある我學生を見よ。彼等の米人に對する。米人の彼等に對する有樣は殆んど其間に何等の隔てをも見ない。米人は日本の學生に各米國的の名稱を附しジョージとかフランクとか言ひて呼捨てにして居る。其間には實に和氣靄々たるものが見えて居るのである。若し斯る境遇を擴張し行くことが出來たならば米人は殆んど我日本人を異人種として見ることはないであらう。

斯く論じ來れば米人が日本人を排斥するの理由は甚だ薄弱である。彼等が支那人を排斥したると同一の理由を以て我等を排斥する譯にはゆ

かぬ。然れども彼等の中には日本人の道徳甚だ低きが爲に社會の安寧を害するが如きことがあるといつて攻撃をするものがある。殊に我同胞の女色に對する醜態を責むるものが多い。桑港に於て市街を通行する日本人は屢々腕白小僧等に「助平々々」と嘲笑的に呼ばれたるとがあるであらう。今や助平てふ語は殆んど日本人の別名であるかの如く考へらるゝに至つた。余は桑港以外の土地に於ても一度此賤むべき語を聽いたことがあつた。これ實に我同胞に對する一大侮辱ではないか。勿論男女間の道徳の亂れ居ることは獨り我邦人のみではない。而も我同胞の中には露骨に不品行を爲すものがある爲め終に我同胞全體が此の如き汚名を受くるに至つたのは誠に殘念なる次第である。

聞く所に依れば加州の海水浴場には日本人の立入ることを許さないさうだ。其理由は曾て某海水浴場に於て或日本人が米國婦人に侮辱を加

へた爲めであるさうだ。其日本人は無期徒刑に處せられたる上其後海水浴場に日本人の入ることを許さぬといふ法令が出たとのことである。

勿論これも日本人排斥の餘波とはいふものゝ我同胞中に公徳の觀念に乏しき者があることを證して居るのである。概して言へば桑港には日本人の數も多いから從つて無頼の徒も少くない樣だ。日本人の多く住居せる部落に於ては殆んど毎夜の如くに喧嘩する者がある醉ひ倒れるものがあつて二三人は必ず警察の厄介になるさうだ。此等は頗る悲むべきことでこれが爲め日本人排斥の聲が高くなつても仕方がない。然し余は此處に一言して置きたいとがある。我等日本人の側よりは充分に我同胞中の無頼者を責めねばならぬが、米國人の側よりこれを理由として日本人を排斥せんとするのは頗る不當の事である。何となれば少數の無頼漢を出すことは獨り我邦人のみでなく何れの國民も皆同樣

であるからである。以太利人、ボヘミヤ人、愛蘭土人の中にも隨分下等なる人間が澤山あるではないか。故に社會の安寧秩序を紊亂するといふ點より言へば彼等も日本人も左程の相違はない。

余等が今回の旅行中に於て最も多く經驗したることは何れの所に至るも貧民の子供が盛に竊盜を行ふことであつた。余等は桑港に於てもスタンホード大學滯在中に於てもロースサンゼルスに於ても屢竊盜の難に逢ふた。ベースボールの球を盜まれたるとは數へられぬ程であるが五弗許のミット一個、三弗のグローヴ三個、三弗の運動靴三足、帽子一個を盜まれた。余等は何時も警戒を加へて居たけれども貧民窟の子供の敏捷なるには閉口した。彼等は窃盜を以て餘り大なる罪惡とは考へて居ないらしい。余は或時彼等の一人に若し運動靴を探して持つて來たならば賞與として十仙を與ふべしと言つたが彼が一時間も經ぬ中に

三足の靴を持來つたのは滑稽であつた。斯る有樣であるから彼等が平常如何なる家庭の中に養育せられつゝあるかは想像することが出來る。若し下等社會の道德を比較することになれば何れの國も先づ大差はない。醜業婦の多いことは獨り我國のみではなく世界到る所に同樣の事を見ることが出來る。余は一夜友人に案內せられてシヤトルの魔窟と稱せらるゝ市街を過ぎたことがあつたが日本の娼婦も米國の娼婦も等しく紅燈を揭げて店を張つて居るのである。ローサンゼルスに於ても亦同樣の事を見る。然らば米國人は決して不道德といふ理由を以て我同胞を排斥することは出來ぬ。彼等は我同胞中の最下等なるものにのみ眼を注ぐことなく我同胞の全體を觀察して其果して社會の治安を害するや否やを定めねばならぬ。

第九章　在米者及び渡米者に一言す

日本人排斥の聲は恐るゝに足らないけれども在米者及び渡米者は我國民の品位を發揚するために充分自から愼むところがなくてはならぬ。兎に角北米太平洋沿岸は我國民に採りて此上もなき好箇の移住地であるから此處に新日本を建設するには之に應ずるだけの覺悟が必要である。六萬人と言へば決して少數ではない。彼等が年々本國へ送る一千萬圓の金も決して輕々に看ることは出來ない。然れども我國民の覺悟如何に依りて六萬の移住民を增加して六十萬となすことも出來る。在米者の奮發さへあれば其貯金を尙數倍ならしむることも難いことではない。余は北米新日本の前途が實に多望なるを思ふと共に在米者及び渡米者に向つて種々なる注文がある。

健全なる國民を造るには勉めて投機的精神を排除し正直なる勤勉に依りて資産を造るといふ考を盛にせねばならぬ。我日本に於ては正直なる勤勉に依るも其得る所は甚だ少ないが米國の如き所に於て斯の如き投機至ることも餘儀ないかは知らないが米國は實に天産に滿ちてある。米國は實に天産に滿ちて心を起すことは想すべからざることである。余は在米者居る。正直なる勤勞には必ず多大の報酬が伴ふのである。余は在米者の多數が賭博をなし、富籤を購ふのを聞きて甚だ殘念に思ふた。我同胞は何故に斯る惡習に染んだのであらうか。余はコレヤ號に於て支那人が朝から晩まで賭博をして居るのを見た。然れども七百の日本勞働者中一人もこれに加はる者は見なかつた。然れば日本人は元來支那人程に賭博を好む國民ではないといふことが出來る。彼等が米國に至りて此惡習に染むのは前に陳べたる如く彼等の生活が餘りに無味乾燥で

一攫千金を夢みる者多し

ある爲と米國に於ける物質的文明の勢力に眩せられて投機的の心を起すに因るものと判定せねばならぬ。

然し投機的精神の發現は單に賭博富籤のみでない。在米者の中には千弗とか二千弗とか云ふ大きなことを考へて二弗や三弗づゝは貯蓄することをしないものが多くあるさうだ。彼等は餘りに多く成功を急いで居る。在米の成功者が十五年乃至三十年の辛苦を經て今日の地位に達して居ることは考へないで一躍して彼等の地位に達せんことを夢みて居る青年が多くあるさうだ。今日在米者中成功者の割合に少ないのは全く斯ることに原因して居るのである。彼等は何故に毎月五弗若くは十弗の金を貯蓄せぬのであるか。勿論此の如き割合で貯金すれば千弗の金を得るに七八年を要するかも知れぬ。然れども彼等は千弗の外に大なる所得のあつたことを悟らぬのである。所得とは何であ

か。彼等が七八年間一の目的を達する爲に得たる忍耐力の養成である。彼等は千弗の金よりも一層價値ある信用てふ者を獲取したのである。此の如き青年は慥に成功する人である。事業を託するに足る人である。彼等の爲には必ず多くの門戸が開かるゝであらう。

新日本建設上必要なることは團結心である。他人の成功を助くるといふ度量である。我等が我國民の短所として常に感じ居ることは他人の成功を羨みて陰に彼れの失敗せんことを祈り甚しきは種々なる手段を以て其事業に妨害を加へんとする狹隘なる心である。バイブルの中に「喜ぶ者と共に喜び悲む者と共に悲む」といふ語があるが、これは善く同情てふことを說明して居る。然るに我等は悲む者病める者失敗したる者には同情を寄せることが出來るけれども、喜ぶ者や成功したる者の爲に心から祝意を表することは六ケ敷い。餘程親しき朋友か左なくの爲に一言す

ば兄弟でなければ心から我等の成功を喜んで呉れるものはない。元來我國民の性癖として人の長所を見るよりも短所を見るといふ傾向があるが他人の失敗を見て快哉を呼び成功を見て不快を感ずるといふことも之に源因するのである。勿論斯る性質は多少各國民が共通に所有して居る所であるけれども我國人は格別に此短所を多く有つて居る樣だ。在米の同胞中には此短所が一層烈しく現はれて居るとのことである。若し彼等の中に幾分か頭角を現はさんとするものがあれば、他の者は齊しく彼を中傷し攻撃し其成功を妨害せんとするのである。從つて我同胞中には協同事業といふものが起らない。大なる株式會社の如きものは殆んど我同胞の間に見ることが出來ない。此點に於ては日本人は到底支那人に及ぶことは出來ぬ。支那人が協同事業をなす時には其中の一二名に事務を依託して他の者は餘り干渉しない。これに反し

て日本人が會社を組織すれば株主は皆重役たらんことを希望して非常なる競爭が起る。其選に洩れた者は始終重役に難題を持ち懸けて彼等をいぢめんとする。誠に始末にならぬ話である。若し在米の我同胞中に支那人程の團結心があり金錢上の信用があつたならば今頃は既に驚くべき事業が出來て居るに相違ない。在米者は勿論渡米者も充分此事に注意して以上陳べたるが如き弊に陷らぬ樣に勤めてもらひたい。

余は前に日本人の同化力に就て陳べたが在米者及渡米者に向つては一層此點に付いて注意を促したい。米國の下層社會を見れば隨分嘔吐を催ほす樣なこともあるが兎に角米國は第一流の文明國である。曾に物質的文明に於て優つて居る許でなく宗教學術文藝などに於て我等の學ぶべき點は澤山ある。學問に於てこそ今では獨逸に及ばない所もあるが、今より三四十年の後には世界第一の學問國となるだらうと考へて

第九章　在米者及び渡米者に一言す

居る人もある。凡ての活動は富に基くのであるから米國の如き無限の富を備へて居る國が萬事に於て牛耳を執るに至るは決して怪むべきことではない。米國の生活は實に活動的で何事を見ても生氣が充滿して居る樣だ。一たび米國人に接すれば誰にても活潑にならざるを得ない。樂天的にならざるを得ない。在米の我同胞は宜しく此文明の泉源に接觸せねばならぬ。我等は西洋の長所を取つてこれを東洋の地に移植するの使命を帶びて居るものであるから出來得るだけ彼の文明の粹を學ぶといふ覺悟がなくてはならぬ。若し我同胞にして一層よく米國の生活に同化することが出來れば人種的僻見の如きは漸次其勢力を失ふに至るであらう。

交際的な札

余は我同胞が勉めて交際的であることを望む。氣輕に快活に米人と交際するに至れば其間に自ら意志の疏通といふことが出來る。全體我邦人

交際の方法

は交際が拙ないから米人に接する機會を屢々失うて居る。若し我等にして交際が巧であつたならば一層よく米國の生活に同化することが出來るであらう。然し交際の巧拙は性質にも因るけれ共主として我等の心懸に因るものであるから此點に於ては矢張相當の努力を要するのである。米國人だと言つて此方より遠かるが如きことをすれば先方も漸次其氣になりて兩者の間に往々誤解の生ずることは免れ難い。故に我同胞の同化力をして一層有効ならしむるには先づ米人に交際するの途を開かねばならぬ。

交際するといつても左程六ヶ敷ことはない。少しく注意すれば娯樂などに於て彼等と交はるの機會が多くある。我同胞中には野球倶樂部などを設けて居る人があるが此等を利用すれば交際の途が開けるではないか。時々米人の野球組と試合を爲すもよい。或は自ら米人の野球組

に加入するもよい。遊戯の如きは全く技術を主とするものであるから殆ど人種の區別などは眼中にない様だ。早稻田野球選手が先般試合をした米國の野球組の中でインデヤンが投手をして居たのはフレズノでニズローが捕手をして居たのはタコマであつた。此の如く技量さへ熟達して居ればインデヤンとかニグローとかの區別はないから我同胞中野球に堪能の人があれば米人の仲間入をなすのも至極妙であらう。音樂の如きも亦米人と交際を結ぶには宜しき方便である。之に趣味を有する人は音樂會に出席するもよい。彼等と音樂を共にして樂むもよい。若し金錢の餘裕あらば演劇を見物するのも得策である。此等は曾に交際の道を開くのみでなく下等なる誘惑に陷ることを拒ぐにも少からぬ功能があると思ふ。

若し將來我同胞が多く製造所などに働くことゝならば勢ひ職業上の競

に加入するか若くは自ら組合を組織すべし

爭が起るに相違ないから我勞働者の中で腕の達者なるものは米人の組織せる勞働組合に加入する樣にせねばならぬ。若し亦勞働力に於て到底米國勞働者に及ばない者がむらば其者だけ團結して勞働組合を組織するが善い。余は前にも陳べたる如く目下我勞働者が米國勞働者の職業を奪ひつゝありとは信せぬ。然れども將來に於ては兩者の間に競爭の起ることなしとも言ひ難い。我等は強いて彼等と競爭して其感情を傷くるを以て得策とは信せぬのであるから出來得るだけこれを避くるの方針を採らねばならぬ。米國勞働者は絶えず賃銀の低い外國の勞働者と競爭せねばならぬ運命を有して居る。米國の東部及び中部に於ては絶えず歐洲諸國の勞働者が移住し來るを以て米國勞働者は常に其賃銀の下落に逢ふ恐がある。然れども彼等は幸にして勞働組合を組織せるが故に新來の勞働者を勸めて入會せしめ一方には彼等を同化すると

共に一方には賃銀の低落を拒ぐことが出來る。新來の勞働者は無智無學の農夫であつて貧しき生活に馴れて居るから多くの賃銀を要求することをしない。從つて自己の生活を高尙になさんとの慾望すらないのである。然るに彼等が勞働組合に入るや多くの賃銀を得て衣食の程度を高め得ると同時に彼等は組合の會議にも出席するが故に英語をも話す樣になり自治制の何たるをも了解する樣になる。一言に之を言へば彼等は斯くして敎育せらるゝのである。余は我日本勞働者に向つても同樣の事を注文せんとするのである。彼等にして米人の組織せる勞働組合に加入することが出來れば此上もない。若し出來ぬとすれば自ら組合を組織して賃銀を一定し漫りに米人と競爭することをしないといふ方針を採るが宜い。是は獨り日本人排斥の理由を除去する許でなく我在米者をして實際的敎育を受けしむるに於ても大なる利益がある。

要するに下等なる生活をなすことは米國人の最も憎む所であるから我在米の勞働者も漸次其生活の程度を高くせねばならぬ。支那人の如く に粗衣粗食して少しの賃銀に甘んずる樣では米國の勞働者がこれを危險なりと考ふるのもあながち無理ではない。我同胞も一方に貯金を爲すと同時に一方には生活の程度を漸次高めるといふ考を以てもらひたい。若し彼等にして數年の後歸朝するといふ積であらば專心一意貯金をなして他を顧みないといふこともあらうが若し永く北米の地に止まるといふ考ならば成るべく米國人の普通やつて居る位の生活をなすのは當然の事ではあるまいか。

最後に一言したいのは我同胞が凡ての方面に於いて信用を得る樣に勉めんことである。信用は成功の基礎であるから此點に於て我同胞が充分注意せんことを望む。余が聞きたる所に依れば我同胞中には雇主に對

して甚だ不忠實なるものがあるさうだ。受負事業であれば日本勞働者の勤勉は驚く程であるが日給制度となれば忽ち骨惜みをなし監督者の眼の及ばぬ場合に於ては樹蔭に憩ひ煙草を燻らし又熱心に働くものがないさうだ。殊に甚しきは彼等の仲間にして正直に勤勉するものがあれば他の者は彼を以て馬鹿正直となし終には種々なる迫害を加ふるに至るさうだ。これ實に怪しからぬことではないか。自ら懶惰であるさへ許すべからざる事であるのに他人の勤勉をも妨害せんとするのは沙汰の限りである。我同胞の中に斯の如きもの少しでもあらばこれ慨に我日本人の信用を害するもので併せて自らの利益を殺ぎ成功の途を杜絶しつゝあるものである。余は深く在米者及び將來の渡米者の成功を祈るものであるから斯く無遠慮に忠言を呈するのである。

第十章　新日本の建設

太平洋沿岸に於ける我同胞の數は僅に六萬人に過ぎないのにこれを稱して新日本など言はゝ餘りに誇張の言であると批難する人があるかも知れぬ。然れども彼地に於ける日本人の數は決してこれに止まるべきものでない。若し我政府の方針にして確立し、米政府をして我移住に反對するを得ざらしむるに至らば我人口は數年ならずして六十萬となり二三十年を出ずして六百萬となるであらう。太平洋沿岸の北米は慥に二三千萬人を容るゝに足るだけの土地を有して居る。否なこれのみではない。若し日本内地に於ける人口の割合を以てすれば彼地は八千萬乃至九千萬の人口を容るゝことが出來る。然らば我日本が六百萬の同胞を彼地に送り出したりとて何の不都合があらうか。我政府の決心如

何に依り我同胞の心得如何に依りては太平洋の彼岸に新日本を建設せんことは決して難事ではない。余は現今の有様を以てしても一大移住地と稱するの價値あることを信ずる。一たび其將來に思ひ至れば余は彷彿として新日本の建設を認めざるを得ない。暫く利害の問題を別にして歷史の趨勢を基礎として論ぜんか。米國は愷に其大陸の一部を以て亞細亞人種の移住するに任すべき義務を有して居るのである。世界の文明が常に西方に向つて進みつゝあることは歷史家の等しく認むる所である。彼のパミールの高原に文明の曙光を見てより文明は常に西漸しつゝあるのである。タイグリス、ユーフレチース及ナイルの文明は希臘羅馬に移り歐洲の文明は更に北米に於て活動の大舞臺を見出した我日本は嘗て東漸したる文明の光に接したことがあつたけれども其は唯一時の事であつた。我の始めて文明の行路を歩み始めたのは米國の

使節ペリーが我國の門戸を叩き我長夜の眠を破りし後の事であつた。然らば米國は文明の恩澤を我日本に傳ふるの使命を有して居るものではないか。而して我日本は更にこれを亞細亞大陸に輸入するの義務を有して居るのである。米國が常に滿腔の同情を我日本に寄せ日露戰爭の開けたる以來常に英國と共に我國債募集に應じ終に萬國に率先して平和克復の媒介者となりたるが如き唯これを名利の念より出でたるものゝみとは考ふることが出來ぬ。彼れは必らず知らず〳〵の間に己が使命を全うせんとするの自覺心があるのであらう。米國人が日本の勝利を熱心に喜ぶのは殆ど我等の想像の及ばぬ位である。東鄕大將がポルチック艦隊を敗つた報知の達した時は余はフレズノといふ所に居た。其時米人の歡喜は如何に大なりしよ。余等が市街を通行せし時には米人は余等を呼んでハロー東鄕とかグドモーニング東鄕とか言つた。其

後何れの所に至りても余等は常に東郷と呼ばれて歓迎せられた。勿論弱者に對して同情を寄するのは普通の事であるから米人が小國たる日本の勝利を喜ぶのも此理由によるものと言へぬとはないかも知れぬ。然し米國人は兎に角文明を我國に輸入したのであるから教師が弟子に對するが如き感を懐いて居る。而して其弟子が戰爭に勝つたといふのだから彼等の喜ぶのは無理もない。我等は今日獨立の地位に在るのみでなく隨分米國人とも競爭せんとの意氣込を示して居る位であるけれども過去に於ては實際米人に教へられたのだ。彼等が我等を弟子扱にするからとて別段立腹するの必要もなからう。海戰の捷報が米國に着した翌日の事であつた。フレズノの諸新聞紙は口を極めて日本を賞賛し彼は慥に一等國の仲間入をなしたと言つて彼我の區別を爲すは間違だなどゝ論じた。米國が兎に角亞細亞人種教導の大任

を負うて居ることは決して疑ふべからざることである。

飜つて我日本の使命は如何なる點にあるかといふに泰西の文明を自國に輸入し更にこれを亞細亞大陸に宣傳することにあるはこれ亦決して疑ふべからざることである。我日本が米國に優りて亞細亞大陸の教化に任ずるの資格あることは誰も信ずる所であらう。我等は宗教言語等に於て清韓人に甚しく接近して居る。清國が近時多數の留學生を我國に送りつゝあること、多數の我教育家を彼地に輸入しつゝあることは慥に以上陳べたる所の事を證明して居るのではないか。殊に近時我教育家が益々支那人教育の爲に特別の施設をなしつゝあるが如きは我國民が其使命を明に自覺し始めたるものと言ふても善い。然らば我國民が一方米國に於て膨脹し一方清韓の地にて膨脹せんとするのは政治的に見てこれを帝國主義の發揚と言はゞ言へ。歴史上の趨勢よりこれを

人種問題の解釋

見れば我日本は單に歐米の文明を亞細亞大陸に宣傳せんとて其使命を果しつゝあるに過ぎないのである。我國はまた文明の仲買人である。米國の市場にて買ひ得たる文明を更に淸韓の市場にて賣捌かんとするのである。然らば我同胞が米大陸の西端に於て根據地を得んとするのは當然ではあるまいか。

更に米人の考へねばならぬ重要なる問題がある。文明の極致は人種間の僻見を除去することでなくてはならぬ。如何に文明が世界に普及しても人種間の感情が融和せぬ間は嫉妬怨恨鬪爭といふが如き野蠻的の行爲は何時までも繼續せらるゝであらう。現今文明の短所といふは全く此點に存するものである。米國は自由博愛平等を以て主義となし平和と文明の宣傳者を以て自任して居るのである。然らば彼は何故に此頑陋なる人種問題に向つて斷乎たる解釋を與へぬのであるか。元來米

國は一國民や一人種の專有すべき國ではない。若し米國人の戸籍を調べたならば殆んど世界中の國民の寄合ひたるものなることを發見するであらう。中には二三百萬の黑人さへも混じて居る。然らば米國の名譽といふ點より考へても人種的僻見を打破するといふことは彼等の實現せねばならぬ所である。然らば如何にして此僻見を除去すべきかといふに太平洋沿岸一帶の地を以て泰西人と東洋人との共棲の地となすに如くはない。四千哩以上の太平洋は必ずしも恐るゝには足らぬかも知れぬが兎に角東洋と西洋との間を隔つる自然的墻壁である。若し米國にして亞細亞人の移住を拒絶するが如きことあらば太平洋は永久に人種的憎惡の念を强大ならしむる境界線である。文明の宣傳を以て自任する米國は何故に其門戸を開放して東洋人を容れ太平洋沿岸の地を以て東西文明の接觸點となさぬのであるか。若し米國にて斯る大使命

を自覺するの日あらば北米に於ける新日本の建設は世界の文明に一新紀元を開くものである。否なこれが文明進歩の上に於て掉尾の大事件であるかも知れぬ。昔は蜜滴り乳流るゝカナンの地を以て理想的天國建設の地と考へたることもあつた。今や菓實枝に滿ち魚介海に溢るゝ太平洋沿岸の北米は理想的世界建設の序幕が演せらるゝの地ではないか。我等日本人は曾に利欲の爲に彼地に赴くことを好まない。其一面には斯る大使命の我頭上に横はれることを自覺したいものだ。

我政府の採るべき方針

新日本建設の目的を達するには我政府は強硬の態度を採りてあらゆる排斥的の行爲に對して抗議を申込まねばならぬ。余は必ずしも我政府が渡米者に對して多少の制限を加ふることに反對するものではない。若し渡米志願者の中に刑事上の罪人又は世間に廣く知られたる無賴漢あらんか、政府は斷じて彼等の渡航を禁止すべしである。然れども今日

人民の爲すべき事

の如く相當の資産がないから渡米を許可しないといふが如きは撞着の甚しきものである。米國に累を及ぼすのは品性の劣等なる人々であつて是は決して財産の多寡に依るものではない。若し余をして遠慮なく言はしむれば中學卒業以上の教育あるものには資産の有無を問はずして旅券を與ふることにしたい。たとひこれ程の教育がなくとも若し大工、石工、鍛工といふが如き一定の職業を有する者若くは數年間農業に從事して其經驗を有するものには安心して旅券を與ふることにしたい。余が前に陳べたる如く我政府は宜しく戰勝の勢に乘じて米國政府の態度に抗議を申込むべしである。

余は一方に於て渡米者の爲に便宜を與ふるの途を講じたい。若し渡米者の成功が疑なきに至らば資本家の中には其旅費を貸して呉るゝものが起るかも知れない。然し余は他人の力を借るよりも在米の同胞が新

渡米者の爲に其途を開くに至らんことを望む。これを詳言すれば渡米者は己が貯へたる金を以て其親戚若くは親友の爲に旅費を調へてやることである。金錢の貸借が個人と團體との間に行はるゝ時は其手續に於て隨分面倒なることもあるが、親戚とか親友とかの間に行はるゝ時は左程でもない。彼の支那人排斥法の發布せられざる以前に於ては支那人の米國に滯在せる者は十萬人以上であつた。而して彼等が斯く多く渡米するに至りたる法を聞くに全く彼等銘々に其親戚や友人に旅費を送りて其渡米を勸めたるに因るのである。支那人は此點に於て頗る機敏であり且つ亦信用がある。親戚や友人の爲に數百金を貸す程の度量もあれば借りたる者も亦た必ずこれを返すといふ德義があつて双方の間に信用が行はれて居る。此の如きことは我同胞中にも容易に行はるべきことで在米者がこれを實行すれば渡米者の數は著しく增加する

に相違ない。假りに渡航費を三百圓とせんか。亦在米者がこれを貯蓄するには二年を要するものとすれば二年毎には必ず一名の親戚及び友人を彼地に呼び寄することが出來る。若し在米者中五萬人がこれを實行すれば二年の後には在米者十萬となり四年の後には二十萬となり十四年の後には六百四十萬人となる割合である。勿論實際に於て斯の如き結果を見ることの出來ないのは當然であるけれども兎に角先着の在米者が其旅費を新渡米者に貸すといふ方法は最も實行し易く亦最も効力ある方法であると思ふ。

支那人の移住を容易ならしめたる者は渡米者の爲に親切に其職業を周旋する所の會社があつたとである。此支那人が組織して居た會社は其本店をニューヨークに置いて在つたと聞いて居るが。其渡米者に便宜を與ふる方法は大略左に陳ぶるが如きものであつた。渡米者は前に陳

べたるが如く在米の友人に旅費を借りて兎に角ニューヨークの本店若くは支店の所在地に到着すればよい。其後は一錢の所持金がなくとも會社は萬事を引受けて世話するのである。支那人の事業は主として洗濯業であつたから會社は常に八方に眼を配りて新に洗濯業を興すに適當なる場所を探し置くのである。其處で新來者があれば適當なる所に店を開き其に要する數百圓の費用は會社に於て一時立替へて呉れる。新來者は萬事準備の出來たところで仕事を始むればよいのであるから渡米早々心配したり種々まごつく樣なことをする必要もない。彼は始めの數ヶ月は月賦を以て會社に拂ひ戻さなくてはならぬが一たび其負債を返却すれば彼は全く獨立の營業者となることが出來る。されば渡米者がこれに依りて大なる便宜を得るのみでなく會社も亦其貸金に對して相當の利子を徴するのであるからこれに依りて利益を受くることが出來る。會社は此外に尙ほ一の事業をなして居る。其は支那人の用ゆる食料品を本國より輸入しこれを支那人所在地の小賣店に賣捌くのである。これ亦會社の營利事業たるのみならず各地の支那人は少からぬ利益を得ることが出來た。此の如き團結心が我同胞の中に在るや否やは疑問であるけれども將來我殖民地の發達を謀るにはこれに類する所の組織が必要であると思ふ。一たび米國の事業に通じたるものは渡米後職業を見出すことの決して困難でないことを知つて居るけれども始めて渡米する人は何れも不安の念に充ちて居るやうだ。若し渡米後親切に職業を世話して呉るゝ確實なる會社があつたならば彼等は如何に安心するであらうか。

以太利人などの間には大なる銀行があつて信用すべき同國人が新事業を企つる時には其資本を貸出して居る樣だ。余は將來太平洋沿岸の農

北米の新日本

業に大なる希望を有するものであるから我同胞の間にも此の如き金融機關の速に起らんことを望むのである。若し我同胞の間に信用てふ觀念が重んぜらるゝに至つたならば桑港の日米銀行の如きは必ず此種の事業をも企つるに至るであらう。正金銀行の支店も啻に預金送金等の事務許りでなく、新日本建設に必要なる金融機關として今少しく新生面を開いてもらひたい。

我同胞の結合力に乏しきは前に陳べたる如くであるが將來に於ては我在米同胞の間に一大會社の組織せらるゝに至らんことを望む。農業には往々數名の協同經營を見ることはあれども株式會社の如きは殆んど無い樣だ。これらは我同胞の結合力に乏しきにも因るのであらうが一には金錢上の信用が乏しいから誰も會社事業に投資するものがないといふことにも源因して居るやうだ。例せば賭博場の如きでも富籤の如

きでも日本人の經營したのは信用がなくて何れも支那人に占有せられて居る。これを見ても我同胞が金錢上の信用に富むにあらざれば殖民の隆盛を見ることは出來ぬ。余は將來信用ある人々の先導に依りて會社事業が成立し白人に劣らぬ程の活動が續々我同胞の間に起らんことを望む。

新日本の建設に必要缺くべからざることは我同胞に依りて英字新聞經營せらるゝことである。勿論桑港に於けるコールやクロニクルの如き大新聞を經營せんことは到底今日に於て望むべからざることであるが將來我同胞の資力が增加するに至らば必ず一大新聞社を起さねばならぬ。先手始めとして協議會の如き團體は英字雜誌若くは英字小新聞を發行するのも適當であらう。英字新聞紙の効能に付て茲に之を評論するの必要はないが、米人の手に成れる新聞紙が鋒を揃へて日本人を

排斥する場合には我は我新聞紙に依りて彼等の僻見を駁撃せねばならぬ。今や殘念ながら我同胞は適當なる其機關を有して居らぬ。是恰も赤手を以て刀劍を持てる者に當るが如きものではないか。殊に我同胞は將來彼地に於て投票權を得るの覺悟を有たねばならぬ。これが爲には米國の歸化法を改めて我同胞を自由に歸化せしむる樣彼等を動かさねばならぬ。斯る目的の爲には年々數十萬圓の金を消費するも決して惜いことではない。

附錄

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

余は渡米者の參考に供せんが爲め加州に於ける農業には幾何の資本を要し幾何の純益あるやを表に依つて示さんと思ふ。此表は桑港日米新聞社の編纂にかゝる「在米日本人年鑑」といふ極めて有益なる書籍より拔載したのであるから茲に一言して置く。

第一　表

加州ソノラ郡バカビルに在る日本小作人が過去三年間に收支決算せる報告書

同人の借地は總計五十エーカー（一エーカーは我四反十八步

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

餘)で内桃九エーカー。杏九エーカー。プルーン卅二エーカー。

●千九百二年度

▲收　入

一金三千九百二十八弗四十仙九厘　青菓物總收入(箱數一一六五七)
一金二百五十弗三十五仙　乾菓物總收入
計　金四千百七十八弗七十五仙

▲支　出

一金一千七百五十弗　借地料
一金一千四十九弗十三仙　箱代
一金一千八百六十七弗六十五仙　人夫賃銀
一金百八十五弗八十五仙　馬料枯草代
一金三十七弗五十仙　同　大麥代

一金四十六弗七十五仙　農具修繕費
一金三十五弗　藥掛け諸雜費
一金八弗　道具代
計　金四千九百七十九弗八十八仙
差引金八百一弗十三仙　損

●千九百三年度

▲收　入

一金七千二百二十九弗七十仙　總收入(箱數九九七二)
一金三十六弗五十仙　乾菓物
計　金七千二百六十六弗二十仙

▲支　出

一金千六百弗　借地料

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

一金百六十五弗
一金三十六弗五十仙
一金二十四弗
一金八弗八十仙
一金十二弗四十五仙
一金千百四十六弗七十八仙
一金千九百二十五弗三十仙
　計　金四千九百十八弗五十三仙
　差引金二千三百四十七弗六十七仙　利益

●千九百四年度

▲收　入

一金二千九百七十九弗五十三仙　總收入（箱數四四八二）

馬料枯草代
同　大麥代
道具修繕費
道具代
藥掛費用
箱代
勞働者賃銀

一金百十六弗
一金二十七弗七十仙
　計　金三千百二十三弗二十仙

▲支　出

一金千五百弗
一金五百二十七弗四仙
一金百四十二弗四十仙
一金二十八弗三十仙
一金二十六弗四十仙
一金八百五十七弗四十仙
一金七弗五十仙
一金九弗二十仙

乾菓物
桑港輸送菓物代

借地料
箱代
枯草代
大麥代
農具修繕費
勞働者賃銀
道具代
水掛代

計　金三千九十八弗二十四仙

差引金二十四弗七十九仙　利益

附言　菓物の價は市場の有樣に依りて常に變化するものであるから以上示したる表の如く損益は一定しない。然し七八年を通算すれば結局利益のある事業なることは疑ないと。

第二表

南部加州に於てはオレンジ（蜜柑）の栽培盛に行はる。今四十エーカーの土地にオレンジを栽培したるものとして七年間の收支豫算を左に記す。

▲第一年の支出

一金四千弗　土地四十エーカー代

一金千六百弗　灌漑用井戸及ポンプ代

一金二千弗　苗代

一金二百弗　苗植付費

一金百二十弗　培養費

一金五十弗　苗木保護設備費

一金三百弗　灌水器械運轉電力費

一金八百弗　耕作費

小計金九千七十弗

▲第二年の支出

一金五十弗　苗木（枯木の補充）

一金八百弗　耕作費

一金三百弗　灌水器械運轉電力費

小計金千百五十弗

累計金一萬二百二十弗

▲第三年の支出

一金八百弗

一金三百弗

小計金一千百弗

累計金一萬一千三百二十弗

▲第四年の支出及び收入

一金八百八十弗

一金三百弗

小計金千八百八十弗

累計金一萬二千五百弗

一金千五百弗

耕作費

灌水器械運轉電力費

第四年目オレンジ賣上高

差引金一萬一千弗

▲第五年の支出及び收入

一金八百八十弗

一金三百弗

小計金千百八十弗

累計金一萬二千百八十弗

一金四千弗

差引金八千百八十弗

▲第六年の支出及び收入

一金一千弗

一金三百弗

小計金千三百弗

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

四年度末の支出越高

耕作費

灌水器械運轉電力費

第五年目オレンジ賣上高

耕作費

灌水器械運轉電力費

累計金九千四百八十弗

一金八千弗

差引金千四百八十弗

▲第七年の支出及び收入

一金一千弗　耕作費

一金百弗　培養費

一金三百弗　灌水器械運轉電力費

小計金千四百弗

累計金二千八百八十弗

金一萬弗　第七年目オレンジ賣上高

差引金七千百二十弗　純益金

附言　右純益金の內より稅金及び諸雜費として六百弗を引去るとする

も七年目には始め四千弗にて購ひ入れたる土地が二萬弗の價根を有するに至るのだから七年目に於ける耕作者の純益は二萬六千五百二十弗である。

第三表　第六年度オレンジ賣上高

葡萄に食卓用のものと葡萄酒釀造用のものと二種ある。今食卓用葡萄百エーカー收支豫算を左に示す。尙一エーカーの代價を四十弗と假定し初年に總代價の四分の一を拂ひ込み殘金三千弗を五ヶ年賦にて拂ふものと假定す。

▲創業費

一金千弗　地代現金拂込

一金千二百五十弗　地均し

一金三百弗　培養道具費

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

一金三百弗
一金六百二十五弗
一金二千弗
一金二百弗
一金五百弗
一金百五十弗
一金五十弗
一金百二十五弗
合計金六千五百弗

▲營農費

第一年

一金二百五十弗
植付費
苗代
灌水器械費
住家
小家
馬二頭
馬車一輛
農具一切
灌水用燃料及給料

一金五百二十弗
一金百弗
合計金八百七十弗

第二年

一金六百弗
一金三百五十弗
一金五百二十弗
合計金千四百七十弗

第三年

一金六百弗
一金二百二十五弗
一金二百五十弗
創業費利子（年八朱）
馬飼料
地代年賦拂込
耕作費（内譯は初年と同樣）
創業費利子
地代年賦拂込
培養費
灌水用燃料及給料

一金百弗　馬飼料
一金五百二十弗　創業費利子
合計　金千六百九十五弗
一金七百六十五弗　葡萄賣上高
差引金九百三十弗　不足

第四年

一金六百弗　地代年賦拂込
一金四百弗　培養費
一金二百五十弗　荷車一輛購入費
一金三百弗　灌水用燃料及給料
一金百弗　馬飼料
一金五百二十弗　創業費利子

一金百弗　雇人給料及諸雜費
合計　金二千二百七十弗
一金二千百五十弗　葡萄賣上高
差引八百八十弗　剩餘

第五年

一金六百弗　地代年賦拂込
一金五百弗　培養費
一金三百五十弗　灌水用燃料及給料
一金百弗　馬飼料
一金五百二十弗　創業費利子
一金二百弗　雇人給料及諸雜費
合計　金二千二百七十弗

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

附　錄

一金四千五百弗　葡萄賣上金

差引二千二百三十弗　剩餘

第六及第七年は收支豫算額略第五年と同じく二ケ年間の純益金四千四百六十弗である。第八年に至れば地代年賦拂は前年度に於て既に皆濟となつて居るから純益額に於て六百弗の增加即ち二千八百三十弗の額に達するのである。

創業以後收支表

一金六千五百弗　創業費

一金八百七十弗　第一年支出總額

一金千四百七十弗　第二年支出總額

一金九百三十弗　第三年收支不足額

合計　金九千七百七十弗

一金八百八十弗　第四年收支殘金

一金二千二百三十弗　第五年同　上

一金二千三百三十弗　第六年同　上

一金二千二百三十弗　第七年同　上

一金二千八百三十弗　第八年同　上

合計　金一萬四百弗

差引六百三十弗　純益

附言　前記の豫算通りなれば第八年後は創業費一切を償却して尙六百三十弗の純益がある且地價一エーカー百五十弗即ち一萬五千弗の價格を有する地主となり年々三千弗內外の純益を得ることが出來る

第四表

若し食卓葡萄の充分成長して居る四十エーカーの畑を借りて

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

附　錄

これを小作するとすれば其收支豫算は如何になるか左にこれを示さう。但し馬、農具、住家及び小家は一切備へ付けあるものと見做す

一金千弗	借地料
一金九十六弗	培養費
一金八十弗	馬使ひ給料
一金七十五弗	枝拾ひ等
一金三十弗	硫黄代
一金四十弗	灌水費用
一金百弗	雇人給料
一金百弗	馬二頭飼料
合計　金千五百二十一弗	

一金二千百六十弗	葡萄賣上高
差引金六百三十九弗	純益

附言　フロリン地方に於ては小作より一歩を進めて土地を購入し十年計畫を立てゝ葡萄の栽培を爲すものが多い。葡萄の植付後三四年間は未だ充分に成長せざるが故に其間々々に苺を植ゆるの便利がある。葡萄栽培に從事するものは此方法を採るべしだ。

第五表

苺の耕作に關しては地方に依り營農費を異にするが故に左に三ヶ所の收支豫算表を掲げやう。（但し借地小作）

▲フロリン地方苺十エーカーの創業費

一金百三十弗	地均し
一金五十弗	耕作費

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

附　錄

一金八十七弗五十仙　植付費
一金九十弗　苗代
一金四百五十弗　井戸堀風車堀付費
一金二百弗　住家幷に小屋建築費
一金七十五弗　馬二頭
一金百五十弗　荷馬車及馬車各一輛
一金五十弗　農具及馬具
合計　金千二百八十二弗五十仙

第一年營農費

一金百五十弗　耕作費
一金五十弗　借地料
一金五十弗　馬飼料

一金五十弗　溝堀り
一金五十弗　諸雜費
合計　金三百五十弗
一金百二十弗　苺賣上高
差引二百三十弗　不足

第二支出及び收入

一金四百五十弗　借地料耕作費等一切
同　收　入
一金千弗　苺賣上高
差引金五百五十弗　純益

第三年支出及び收入

一金四百五十弗　支出

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

一金千二百弗　　收入
　差引金七百五十弗　　純益

第四年支出及び收入

一金四百五十弗　　支出
一金八百弗　　收入
　差引金三百五十弗　　純益

▲ワツソンビル莓十エーカー創業費

一金二百弗　　地均し
一金二百二十五弗　　苗代
一金二百弗　　植付費
　合計　金六百二十五弗
　營農費（四ヶ年分）

一金三千二百弗　　摘採費
一金六百弗　　灌水費
一金六百弗　　灌水用水代
一金八百弗　　借地料
一金千二百弗　　運搬費
一金二百弗　　雜費
一金二千四百弗　　耕作費
　合計　金九千弗
　總計金九千六百二十五弗（四ヶ年分）
　收　入（四ヶ年分）
九千四百五十弗
　差引金百七十五弗　　不足

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

▲トロピコ苺三エーカー収支豫算支出(三ヶ年分)

一金四十五弗	借地料
一金二十弗	馬使ひ及地均し費
一金百二十弗	苗代
一金三十弗	植付費
一金二十八弗	農具其他
一金百四十弗	灌漑用水代
一金四百弗	耕作人夫
一金二百六十四弗	箱代
一金七百五十弗	摘採賃金
一金百六十五弗	運賃及手數料
合計 金千九百六十二弗	

一金二千七百五十弗	三ヶ年間苺賣上高
差引七百八十八弗	純益

第六表

馬鈴薯の収支豫算

▲川下地方

百エーカーの創業費

一金六百弗	馬六頭
一金七十五弗	馬具
一金八十弗	荷車一輛
一金六十弗	プラワ三挺
一金十五弗	カルチベーター二挺
一金十三弗	ハロー一挺

第一 キャリホルニヤ州の農業収支計算表

一金十八弗　ホーク二打
一金七弗　ポテトーホー一打
一金三十五弗　馬車及馬具
一金百弗　諸雜費

合計　金一千三弗

營農費

一金千弗　借地料
一金八十二弗五十仙　プラワ使用者賃銀
一金二十五弗　ハロー使用者賃銀
一金四百八十弗　種芋
一金七十五弗　種芋切
一金百二十五弗　植付費

一金五百弗　草取り費用
一金百二十五弗　灌水費
一金七十五弗　耕作費
一金千弗　掘賃及袋詰賃
一金四百五十弗　袋及絲代
一金三百弗　馬飼料
一金百弗　食料
一金二百弗　運搬費

合計　四千五百三十七弗五十仙

一金六千弗　芋收穫一萬俵代

差引千四百六十二弗五十仙　純益

▲サリナス地方

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

附　錄

創業費は畧川下地方と同樣であるから唯營農費だけを揭げることにする。

營農費（百エーカー）

一金千弗	借地料
一金七百五十弗	種芋代
一金五百弗	鋤き賃
一金七十五弗	種芋切賃
一金七十五弗	植付費
一金五百弗	草取り賃
一金九百弗	掘賃
一金三百三十七弗五十仙	袋及繩代
一金三百七十五弗	運搬費

一金百弗	諸雜費

合計　金四千六百十二弗五十仙

一金五千九百弗	馬鈴薯賣上代

差引千二百八十七弗五十仙　純益

第七表

ピーンズ（豆類）耕作收支豫算（川下地方）

創業費（百エーカー）

ピーンズの創業費は大略馬鈴薯と同樣であるから茲には其以外に要するものゝみを揭ぐることにする。

一金七十五弗	收穫用のシーツ三枚
一金四十弗	ファーミングミール
一金二十五弗	ローラー一挺

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

一金五十弗　種蒔器械

合計　金百九十弗

營農費

一金千弗　借地料

一金百六十五弗　プラウ使用者賃銀

一金五十弗　ハロー使用者賃銀

一金百五十弗　種子代

一金五百弗　草取り賃

一金九十弗　耕作費

一金百二十五弗　灌水費

一金百七十五弗　取上げ費用

一金四百弗　皮剝費

一金百弗　袋代

一金四十弗　運搬費

一金三百弗　馬飼料

一金百弗　食料

合計　金三千百九十五弗

一金五千弗　ビーンズ收獲二千俵代

差引金千八百五弗　純益

第八表

トマト（赤茄子）一百エーカーの收支豫算等は左の如くである

創業費

一金六百弗　馬六頭代

一金七十五弗　馬具代

大荷車一輛　一金二百弗
プラワー三挺　一金六十弗
カルチベター二挺　一金十五弗
ハロー一挺　一金十三弗
乘用馬車及馬具　一金五十弗
箱一千個　一金百八十五弗
馬飼料　一金三百六十弗
諸雜費　一金百弗

合計　金千六百五十八弗

營農費

借地料　一金千二百五十弗
プラワ及ハロー使用者賃銀　一金百七十五弗

苗十萬本代　一金百七十五弗
植付費　一金二百五十弗
草取り及び耕作費　一金百六十八弗
灌水費　一金百五十弗
摘採賃　一金千七百五十弗
運搬其他諸雜費　一金二百弗
食料　一金百弗

合計　金四千二百十八弗

トマト賣上高　一金六千百二十一弗

差引千九百〇三弗

純益

第九表

玉葱百エーカーの收支豫算表を示す。但し其創業費はトマト

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

創業費の中より百八十五弗の箱代を引去りたるものと同じことであるから省略する。

營農費

一金千五百弗	借地料
一金百七十五弗	プラウ及ハロー使用者賃銀
一金百七十五弗	種代
一金五十弗	蒔付費
一金千五百七十五弗	草取り及び耕作費
一金百五十弗	灌水費
一金二千二百五十弗	堀賃及び袋入れ賃
一金六百七十五弗	袋及び絲代
一金三百弗	運搬費其他雜費

一金百弗	食料
合計 金六千九百五十弗	
一金九千弗	王葱一萬五千俵代
差引金二千〇五十弗	純益金

附言　若し蒔付以前に賣込契約を爲す時は種代は契約等より供給する慣例があるから其時は種代を要せぬことになる。

第十表

セロリと稱する野菜を耕作する者の收支豫算表は左の通りである。而して耕作地は二十エーカーと假定して置く。

支出及び收入

一金五百弗	借地料
一金二百弗	馬二頭及び馬具代

第一　キヤリホルニヤ州の農業收支計算表

一金百四十弗　農具一切
一金九十弗　荷馬車一輛
一金四十弗　諸道具類
一金百五十弗　植付費
一金三百弗　切出し賃銀
一金六十弗　耕作費
一金百弗　苗作り費
一金三百四十弗　馬仕事賃銀
一金五十弗　灌漑費パイプ代共
合計　金二千〇七十弗
一金三千八百六十一弗　セロリ賣上高
差引金千七百九十一弗　純益金

第十一表

アスパラガスといふは西洋料理に多く用ゐらるゝ野菜であつて其收穫を見るまでには二三年を要するのであるけれども利益も亦從つて多いのである。唯長年月を見込みて計畫を立てねばならぬ。此所には十二年計畫として百エーカーの耕作地にアスパラガスを栽培する時の豫算を示す。

▲創業費

一金二百弗　馬二頭代
一金五十弗　馬具代
一金百五十弗　大荷車一輛
一金二十弗　プラワー一挺
一金十五弗　カルチベーター一挺